

会長のページ 医師養成についての日本医師会の提案

－医学部教育と初期臨床研修制度の見直し－(案)	稲倉 正孝	3
日州医談 介護保険制度の見直しに関する意見を読んで思うこと	石川 智信	4
宮崎大学医学部教授就任挨拶	澤口 朗	6
新 春 随 想		8
竹中 晃司, 宮本 義明, 今村 司, 瀬口 浩司, 田中 史郎, 南嶋 洋一 森 憲正, 井藤 健, 峰松 俊夫, 河野 清秀, 長沼弘三郎, 佐々木幸二 飛松 憲夫, 秦 博子		
エコー・リレー(426)	丸山 英晴, 押川勝太郎	20
メディアの目 嗚呼, 青太スマイル	岩下耕一郎	24
宮崎県国民健康保険診療報酬診査委員名簿		25
宮崎大学医学部だより(外科学講座泌尿器科学分野)	分田 裕順	28
診療メモ 不登校を通した子どもの診察風景	橋口 浩志	54
私 の 本 生きる力	谷口 二郎	56

ベストセラー		19
あなたできますか?(平成21年度医師国家試験問題より)		21
宮崎県感染症発生動向		22
各都市医師会だより		26
薬情報センターだより(285) 新薬紹介(その43)		29
日医FAX ニュースから		30
理事会日誌		32
県医の動き		36
会員の異動・変更報告		37
ドクターバンク情報		39
行 事 予 定		43
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会		45
読者の広場		57
あ と が き		60

~~~~~

|                                          |  |    |
|------------------------------------------|--|----|
| ご 案 内 宮崎県医師会創立12周年記念医学会 .....            |  | 7  |
| お知らせ 平成2年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生求職のお願い ..... |  | 38 |
| 女性医師メーリングリストのご案内 .....                   |  | 57 |
| 郡市医師会への送付文書 .....                        |  | 58 |

## 医師の心得

1. 私たちは、皆さまの  
健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに  
最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに  
医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの  
「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの  
健康維持と医療の質の向上に尽くします。

社団法人 宮崎県医師会

(平成 14 年 3 月 12 日制定)

〔表紙作品：水墨画〕

### 地塘春草

寒椿き 賑はふ社に 赤く咲き  
今日の元旦 祝ぎてゐるなり

新しき 年を迎えて 久々に  
友の賀状の 筆跡しのぶ

美しき 国とはいはむ それよりも  
やさしき国で あればなほよし

都城市 よし やま まさ とし  
吉 山 政 敏

## 会長のページ

医師養成についての日本医師会の提案  
ー医学部教育と初期臨床研修制度の見直しー(案)いな くら まさ たか  
稲 倉 正 孝

2011年 1月 19日、日本医師会より「医学部教育と初期臨床研修制度の見直し(案)」が発表された。

2004年 4月に導入された新医師臨床研修制度では、それまで努力規定であった2年間の研修が必須となり、その代償として研修医に対する適切な処遇が確保された。研修プログラムも大学医局を中心とした関連病院を含めた単一診療科の研修から、基本研修科目、必須科目及び地域保健・医療から適宜選択する研修へと変わった。

2009年 5月から必須3科目(内科、救急、地域医療)と選択必修科5科目(外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科)の中から2科目以上選択するようになった。また、2年目

から専門の診療科での研修及び従来のように多くの診療科を巡回するような研修を選択することも可能となった。

2006年 9月に日本医師会に設置された医師の臨床研修についての検討委員会(プロジェクト)は、2008年 3月に報告書をまとめている。要約すると、医師不足・医師の地域偏在については、マッチング制度を見直し、臨床研修病院の募集定員を絞り込むとともに、大学が果たしてきた医師派遣機能に変わるシステムの構築を大学病院、地域の医療機関、地域医師会、行政が一体となって推進するとしている。

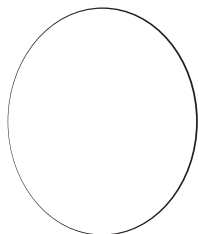
卒前・卒後教育について、医学部6年生は知識問題を中心とした医師国家試験対策に多くの時間・能力を割いている実態を改め、医師の基本的な能力として最優先される臨床能力の向上を目指した、医学教育改革案を提案している。医学部1～4年生で、医師としての資質の涵養に必要な教養及び基礎的医学知識の修得に努める。4年生終了時に、CBT(Computer Based Testing、医学的知識を問う試験)、OSCE(Objective Structured Clinical Examination、客観的臨床能力試験)、面接試験からなる「臨床実習資格試験(仮称)」を課し、合格者には国家資格としての「臨床実習免許(仮称)」を授与する。医師国家試験で問われている知識は、このCBTに一本化する。医学部5～6年生には、法的整備を行い、指導医の下で参加型の臨床実習を実現するとしている。卒前教育の充実によって、医師国家試験に合格した時点で、臨床研修能力は一定の水準に達していると考えられる。初期臨床研修制度においては、1年目はプライマリ・ケア能力の獲得に一定の目途をつける。2年目は将来専門としたい診療科について、ある程度自立してプライマリ・ケアを行うことができるようにするとしている。

日本医師会は、医学部教育から初期臨床研修までの8年間、一貫して、原則として出身大学のある都道府県で初期臨床研修を行うことを提案している。これにより、医師が地域への愛着を深め、ひいては医師の地域的偏在・診療科間の偏在解消の一助となることを期待するとしている。

医学部学生から初期臨床研修の8年間を出身大学の管理下で行うこと、大学・医療機関・医師会・行政・住民が研修に関与することは宮崎県医師会も提案していたことであり、是非とも実現させたい。このような卒前・卒後教育の見直しによって都道府県の医療需要にマッチした医師養成が可能であると考える。

(平成 23年 1月 31日)

## 日州医談

介護保険制度の見直しに関する  
意見を読んで思うこと常任理事 いし かわ とも のぶ  
石 川 智 信

次期介護保険制度の見直しに向けて、社会保障審議会介護保険部会で具体的な提言が行われてきている。私たち医師会員は、診療報酬改定に対してはほとんどの方が強い関心を持っているが、介護保険改定に対しては一部の先生方しか注視していないようである。しかしながらこれからの高齢化社会を支えるためには、医療制度を充実させるだけでは不十分であるということは皆様の共通認識であると思われる。また、介護の現場に近い場所で医療を行っている診療所や中小病院の医師にとっては、介護保険の様々なサービスと否応なく向き合わざるを得ないのが現状であろう。そうであれば、好むと好まざるとにかかわらず介護保険制度がこれからどのような方向に向かっていくのかによっては、私たち医師のあり方にも大きな影響が及ぶことは間違いない。

昨年 11 月 30 日に行われた社会保障審議会介護保険部会での意見を踏まえて、12 月 24 日に介護給付費分科会で具体的な検討作業が開始されている。今後数回の検討が行われて本年の秋には最終案がまとめられるであろう。従って来年の改定案を予想するためには、介護保険部会での意見をじっくり読み解く必要がある。

まず大きな方向付けとしては二つある。①前回導入された地域包括ケアシステムの確立、②給付と負担のバランスを図るために給付の効率化・重点化を進める、の 2 点である。

前者で言う地域包括ケアシステムとは日常生

活圏域内(中学校区域)において医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく、有機的かつ一体的に提供される体制のことである。現在の介護保険制度下にあっても、住み慣れた地域で最後まで暮らし続けることは困難な場合が多い。特に単身であったり、重度の要介護者が在宅生活を続けるには、24 時間随時対応できる訪問介護と訪問看護の連携が不可欠であるが、それを可能とするサービスが現在はない。前回創設された夜間対応型の訪問介護事業は、夜間のみに特化したサービスのためほとんど普及していないのが現状である。そのため、同じ事業所が 24 時間定期訪問と、必要に応じた短時間の臨時訪問を行えるサービスの導入が必要である。また小規模多機能型居宅介護と訪問看護を一体的に行うことができれば、医療依存度の高い利用者でも最後まで自宅で暮らすことが可能になる。

筆者の法人ではすでにボランティア的に 24 時間在宅を支えるシステムを試行している。お泊りの機能は持ち合わせていないが、デイケア、デイサービス共に介護スタッフが交代で、専用の携帯電話によるオンコールを行っている。ベッドからずり落ちて起こせないなどの介護上の問題であれば介護スタッフが手助けに行く。発熱などの医療的な問題であれば、当院の訪問看護師に連絡して対応し、必要があれば医師に繋ぐシステムである。この場合問題なのは、介護スタッフの訪問は全くのボランティアであること

や、普段訪問看護を利用していない方の場合も看護師の訪問もボランティアになることである。結局医師が往診した時だけ報酬を請求できることになり、実際的には無料奉仕になることがほとんどである。ただ昼間介護しているスタッフが夜間訪問すると、利用者も家族も安心度が高い。また当院には訪問看護ステーションはなく、訪問看護師はデイケアやデイサービスの利用者の外来看護も行っており、医療情報も共有しているため利用者の安心度はさらに高まる。

このように、介護と医療が有機的かつ一体的に提供できるシステム作りは、現場の人間が必要に迫られて先駆的に行っている。是非次回の改定には、より自由度の高い制度に変えていただきたいと思う。

しかしその際に大きな壁になりそうなのが、②の給付と負担のバランスの問題である。2時間の在宅生活を支えるためには、それぞれの状況に応じた柔軟なサービスの組み合わせが可能にならなければならないが、負担が増えれば利用したくてもできなくなり、結局施設に入所した方が安上がりになり、入所を消極的に希望せざるを得なくなるというこれまでの繰り返しになってしまう。平成 22年 6月 22日に閣議決定されたペイアズユーゴー(pay as you go)原則によれば、新しい歳出増を伴う施策には、それに合った財源の確保が求められる。それが保険料

や自己負担の増加になるのか、消費税の値上げ等でねん出される税金の投入になるのかはわからない。結局は財源問題を棚上げにしたまま制度改革を進めようとしてきた歴代政権の怠慢のつけが、医療の崩壊や介護現場の崩壊を招いていることは間違いのないところであろう。

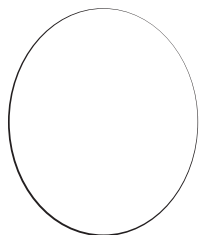
民主党政権になって、平成 24年までに全廃されることになっていた介護療養病床は、かろうじて生き残ることになりそうである。ただ今回の意見の中では、全廃を中止するとは明言していない。「介護療養病床の廃止方針を撤回すべきではないかとの意見があった」としか書いていない。日本医師会の原中執行部は、民主党との間で、廃止は凍結ではなく決定であることが確約されていると述べられている。信じるしかないが、要は有床診療所をはじめとして地域の身近な所に存在するベッドが、これから医療依存度の高い高齢者が地域に住み続けるための重要な存在になるということを、地域住民を巻き込んで国に提言し続けることが大切である。

介護職員の待遇改善の問題も含めて次回改定の抱える課題は多い。介護保険の改定に対してもっと医師が現場の声を届ける努力をしていかなければ、主治医意見書不要論のように介護保険からの医師の影響力排除に向けた制度改定がなされていく危険性は大きい。



## 就 任 挨 拶

## 宮崎大学医学部教授就任挨拶

解剖学講座超微形態科学分野教授 さわぐち 澤 口 あきら 朗

この度、平成 23 年 7 月 1 日付で宮崎大学医学部解剖学講座超微形態科学分野の教授に就任いたしましたので、この場をお借りして宮崎県医師会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

私は神奈川県出身で鎌倉鶴ヶ岡八幡宮の境内に隣接する小・中学校で学びましたが、「教科書は学校に置いて帰ること、宿題は一切なし」という小学校の教育方針を「よく遊び、よく遊べ」と解釈して自由奔放に過ごしました。振り返ると、研究者としての素地はこの自由な校風の下で養われていたように思えます。高校ではラグビー部に所属し、「スクールウォーズ」に魅了された仲間と楯円球を追いかける硬派な青春時代を過ごしました。一年間の浪人後、この年から入試制度改革の実施を発表した宮崎医科大学に願書を提出しました。改革とは高校時代の部活動や生徒会活動などに基づいて合格者を選考するという斬新なものでしたが、ラグビー部での活動が評価され、合格通知書が送られてきました。

大学でもラグビー部に所属しましたが、眼科臨床実習で網膜裂孔が見つかったことを機に部活動を休止し、菅沼龍夫教授(現・宮崎大学長)が主宰される解剖学第二講座の門を叩いて研究の道を歩み出しました。大学院進学後は「高圧凍結技法—微細形態と生体物質の保持に優れる新たな凍結技法—の組織化学研究への応用」を主題とし、学位取得後にはカリフォルニア大学バークレー校において John G. Forte 教授(1974 年にプロトンポンプを発見した胃酸分泌研究の

第一人者)に師事する好機を得ました。現在は「高圧凍結技法を応用した胃酸分泌機構の超微形態学的研究」を重点課題とし、共同研究として iPSC 細胞から分化誘導された細胞の電顕観察にも取り組んでおります。

解剖学教育は肉眼解剖学を担当し、解剖学実習は机上の学習では学び得ない人体の精緻な構造について理解を深めると共に、「生命の尊厳」や「医の倫理」について真摯に考える貴重な機会であることを学生に説きながら指導にあたっております。近年の画像診断機器や内視鏡下手術等の発達は目覚しく、伝統的な系統解剖学の学問体系に臨床医学との関連を指向した「臨床解剖学」の要素を織り交ぜた講義と実習を実施しております。また、地域貢献の一環として宮崎県内の看護学科をはじめとするコ・メディカル養成学科生を対象とした解剖学標本示説実習を実施し、解剖体や臓器標本を呈示しながら解説できる県内唯一の教育機関としての役割を果たしていく所存です。

私が学生の頃は解剖学実習室に冷房設備がなく、緑衣を汗で深緑色に染めながら実習したのですが、現在は冷暖房はもとより、法改正に伴うホルムアルデヒド対策も万全で、3 か月間に及ぶ解剖学実習の環境は格段に向上しております。この恵まれた教育設備の下で、母校の教壇に立って後輩の解剖学教育に携われる喜びとともに、医学教育の礎をなす解剖学教育を担当する責任の重さを感じている次第です。まだ経験の浅い若輩者でございますので、宮崎県医師会の諸先生にはご指導とご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

ご 案 内

宮崎県医師会  
創立 122周年記念医学会

と き 平成 23年 2 月 25日(金) 19: 00～

ところ 宮崎県医師会館 2 階研修室

(宮崎市和知川原 1 丁目 101 ☎ 0985-22-5118)

◇医神祭・医学賞表彰式

19: 00～ 19: 20( 20分)

1. 開 会
2. 医神祭
3. 県医師会長挨拶
4. 県医医学賞表彰

◇医学賞講演

19: 20～ 19: 50( 30分)

演 題 『ペグインターフェロン+リバビリン併用療法における  
早期 HCV コア抗原推移による治療効果予測の検討』

講 師 宮崎大学医学部内科学講座消化器血液学分野医員  
県医師会医学賞受賞者 土 持 舞 衣 先生

演 題 『宮崎県における抗コリン剤の使用状況  
～本当に患者は満足しているのか～』

講 師 宮崎大学医学部外科学講座泌尿器科学分野講師  
県医師会医学賞受賞者 井 上 勝 己 先生

◇特別講演

19: 50～ 20: 50( 60分)

演 題 『伊東マンショの生きた時代とその生涯』

講 師 宮崎大学教育文化学部教授 竹 井 成 美 先生

## 新 春 随 想

(その 2)

新春の随想を募集いたしましたところ、多数のご投稿をいただきありがとうございます。1, 2 月号にわけて掲載させていただきます。

## ウィーンフィル

日南市 日南市立中部病院 竹 中 晃 司

平成も 23 年となり、大学を卒業してからすでに 30 年を経過し、大学時代に触れ始めたクラシック音楽との付き合いも 30 年を超えたことになります。オーケストラの演奏する交響曲を好んできましたが、世界のオーケストラの中で並び称される、ベルリンフィルとウィーンフィルの演奏を直接聞いてみたいというのが念願でした。昨年、その夢が宮崎の地で初めて叶いました。宮崎県立芸術劇場という素晴らしい演奏会場で宮崎がもっており、宮崎国際音楽祭が県民にも根付いてきたために、世界に冠たるウィーンフィルが日本公演の一つに宮崎を選んでくれたのでしょうか。私がクラシックに触れ始めたころのベルリン、ウィーンのオーケストラはカラヤン、バームといった名指揮者により演奏活動がされていたころで、その演奏を直接聴いてみたいという思いは今よりも数段強かった記憶があります。学生のことで金銭的な余裕はなく、ステレオでレコードをかけて生の演奏の感動を想像していたものでした。人気のオーケストラ、指揮者のチケットを手に入れるのは現実には困難でした。卒業前に、一度だけ大阪フェスティバルホールでシカゴ交響楽団の演奏を聴くことができました。ベルリンフィル、ウィーンフィルの

演奏を直接聴くことはもうないだろうと半ばあきらめていたものでした。宮崎に住み始めて 15 年余り、伝統のウィナーホルンの響きはすばらしいものでした。さらに、予定指揮者の突然の交代でタクトを振られたジョルジュ＝プレートル氏の指揮もすばらしく、さらに演奏終了後にはご高齢にもかかわらず一人で舞台の袖から何度も客席の声援に応えてくれたサービス精神には、一流の演奏家、一流の人間にしかできない深みを感じ、さらに感動を覚えたものでした。

宮崎では口蹄疫からの復興も、地域医療の崩壊を食い止めることもこの地に住んでいる県民の力の結集が必要だと感じ、夢から現実に戻って日々の診療に帰ってきています。

カット



## 新春随想

延岡市 宮本整形外科 <sup>みやもと</sup>宮 本 <sup>よしあき</sup>義 明

「門松は冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし」

今年 48歳になる我が人生いったいどのあたりまで来たものか… 40歳を越えた頃から「自分の残り時間」というものが気になりはじめました。

新春早々このような話で申し訳ありませんが  
昨年の夏に父が他界しました。父は 68歳の時に肺癌をわずらい、父と私の母校である久留米大学の付属病院で治療をうけた後多くの方々に支えられ 80歳まで命を長らえることができました。

診察に追われていた日々から一転、病後の 12 年間は自宅でゆっくり静養しておりましたが、後を継いで開業した私にとっては良き指南役でした。相談したいとき、父がもういないことをあらためて知らされ、半年経とうとした今でもまだ寂しくなります。

勤務医の頃、日常の問題は殆どが疾患や治療に関することで、周りに相談できる仲間や先輩がたくさんいましたが、開業してからは診療のことに加え経営・人事・その他心配事が湧いて出てくる毎日、今では頭痛薬と漢方薬なしでは暮らせなくなってしまうしました。

この先本当に家族と職員の生活を守っていいのか、来院される方々に信頼される医療を行っているのか…情けないことにアラ 50 となってまだ「知天命」どころか惑うばかりの毎日です。

父が病で現役を退いた年齢まであと 20年。旅立った年までに 32年。そこまで道は続いていないかもしれないけれど今年 4 歳になる一人娘の無邪気に遊んでいる姿をみるたび、まだ暫くは

この旅が途中で終わらぬ様にと願って暮らしています。

どうせなら楽しい旅にしたいもの。まずは今年一年が良い年でありますように。

## 田舎三段

小林市 小林保養院 <sup>いまむら</sup>今 村 <sup>つかさ</sup>司

誰でも恥ずかしくて他人に言えない様な事があります。人知れず還暦までにはと目標を立て努力しましたが、どうやら達成できないと自覚しました。

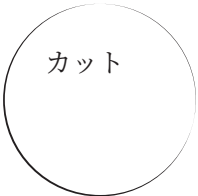
高校生の時に囲碁のルールを覚えたのですが長い間御無沙汰していました。小林に帰ったのをきっかけに碁会所に通い始めました。数年経って初段になりしばらくして二段三段へと上って行きましたが、晩婚で子供が出来たのと同時に女房から育児を命じられ碁会所への出入りを禁じられました。3年後に2番目が出来更に延長され、とうとう8年半のブランクの後やっと許可が出ました。

再開して6年経ちましたが、最初は初段格で始め少しずつ上り3年前から三段で打っています。すぐにでも上達するかと甘い夢を見ていま

したが現実には厳しくここ数年全く進歩がありません。本を読んだり、ビデオを見たりと努力はするのですが、週末意気揚々と出かけてはボロボロにやつつけられ消沈して帰ります。夜は一人寂しくアルコールを飲み惨めな気持ちに浸っています。そんな姿を見て女房は「馬鹿じゃないの」と追い打ちをかける様に罵ります。

小生が勝てない原因は相手が強すぎるためです。碁会所通いがおよそ 20 年になりますが未だに私が最も年少の方で初心者の参加はほとんどありません。そのため五段六段の猛者が多くこれら高段者に勝つのは容易ではありません。

体を動かすのは不得手で、運動は全く音痴です。もちろん音楽も同様です。何か人に勝って得意になるものはないかと思い碁を始めましたが誇大妄想でした。「強くなると相手がいらなくなりますよ」との変な忠告を信じ、今後も勝ち誇った相手に涙する日々が続くでしょう。「還暦までに高段者になるのが目標だった」とは口が裂けても公言できません。



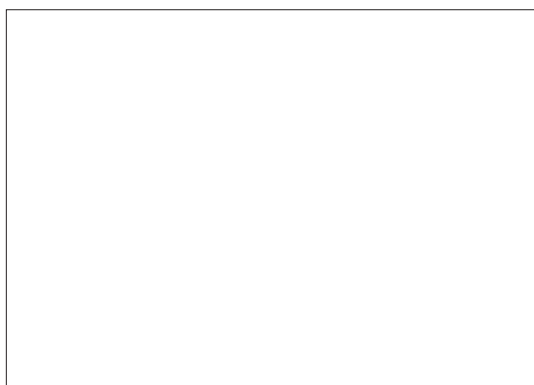
カット

## “龍馬伝”から“坂の上の雲”へ

都城市 メディカルシティ 瀬 口 浩 司  
東部病院

今年、人生 4 回目の年男となり、12 年区切りで振り返ってみると、やはり最近の 12 年間(36~48 歳)が最も波乱万丈でした。12 年前、1999 年はカナダ・オンタリオ州・ロンドンという、ちょうど宮崎市程の規模の地方都市で留学最終年を迎えていました。妻(産婦人科医)の留学に引きずり込まれる形(カナダ人にも“妻に連れられてきた夫はお前くらいだ”と言われました)で、全く英語が話せなかった自分が、全く日本語が通じない世界に放り込まれました。それでも 3 か月を過ぎると人間、何とかなるもので(3 か月間は神経性下痢に悩まされましたが)、逆に帰国したくなくなるくらい、カナダ生活にはまってしまいました。カナダは決して(物質的には)豊かな国ではありませんでしたが、日本のようにあくせくしておらず、人々は心豊かに暮らしていました。給料はもらえたのですが、ポスドクの最低額(日本円換算で年棒 200 万円!)でしたので、質素に暮らし貯金して、休みごとにカナダ旅行(バンクーバー、カナディアンロッキー、オタワ、ナイアガラ・フォールズ、ケベック、プリンス・エドワード島)を楽しみました。カナダでの 3 年間は(日本での貯金がすっからかんになりましたが)私の人生の宝物となりました。ノストラダムスの大予言がはずれてくれたおかげで、無事 2000 年 6 月に帰国。しかし医局命令でいきなり都城市郡医師会病院に放り込まれました。留学前の宮医大第 2 病理学教室での大学院時代と合わせて、8 年間に及ぶ基礎分野での研究生活から、最前線の野戦病院に。これも留学に匹

敵する、かなりのカルチャーショックでした。そこも生き延び、医師会病院時代の仲間達と理想の医療をめざして、坂本龍馬の如く“脱藩(退局)”し、現在のメディカルシティ東部病院設立に至っています。次の12年間はここ、メディカルシティで秋山真之の如く“坂の上の雲”を目指していきます(写真はメディカルシティ東部病院の屋上ヘリポートです)。



## 新春随想～私の趣味～

宮崎市 木花眼科クリニック 田 中 史 郎

新年あけましておめでとうございます。今年は年男、飛躍の年にしたいと考えております。さて、昨年は余暇をテレビや映画鑑賞で過ごすことが多かったのですが、意外に良い作品が多

くて楽しめました。その中で、印象に残ったものをいくつか挙げてみます。

### ○ドラマ「ブルース・リー伝説」

主に武術家としての姿が描かれている。多分に美化されているのだろうが、出会った様々な人々を魅きつけていくストーリーに引き込まれた。

### ○ドラマ「プロゴルファー花」

深夜帯の放送、制作者は「どーせ、誰も見てないだろう」とでも思っていたのだろうか。敵役が“不動の女王”とが“リコ”とかだったり、それはそれとして。

### ○映画「桜桃の味」

期待していたが、よく分からなかった。舞台設定や台詞の中に何か意味があるのかもしれない。

### ○映画「波の数だけ抱きしめて」

舞台設定が1982年、当時の“憧れの青春”が映像化されている。

### ○ドラマ「龍馬伝」

「武市の夢」あたりまでは、盛り上がった。後半はややピンぼけか。

### ○映画「この道は母へとつづく」

筋違いかもしれないが、スティングの“Russians”という歌を思い出した。

### ○映画「ワンダフル・ライフ」

思い出を一つだけ選ぶのは難しいが、もし自分だったら3～4歳の時、父と映画を見に行ったことを選ぶだろう。

### ○ドラマ「俺たちの旅」

懐かしの昭和の青春ドラマの再放送。何となく見てしまう。

今年もよい年でありますように。

## ESKAPE — 化学療法を

## ESCAPE する細菌 —

宮崎市 古賀総合病院 <sup>みなみ</sup>南 <sup>しま</sup>嶋 <sup>よう</sup>洋 <sup>いち</sup>一

近年、化学療法が無効な細菌による感染症が国際的な問題となり、現存する抗菌薬の適正使用とともに、新たな抗菌薬の開発が課題となっている。化学療法を ESCAPE する細菌群は便宜上 ESKAPE と総称される。すなわち、*Enterococcus faecium* , *Staphylococcus aureus* , *Klebsiella pneumoniae* , *Acinetobacter baumannii* , *Pseudomonas aeruginosa* , *Enterobacter spp.* の頭字語である。

昨今、某大学付属病院での院内集団感染を筆頭に、社会的な問題となっている多剤耐性アシネトバクターはその一つである。様々な多剤耐性菌感染症の報道のなかには、あたかも薬剤耐性菌が強毒菌に変異したかのような、誤解を招きかねない表現がある。アシネトバクター・バウマニ(AB)は、易感染性宿主に病原性を発揮する日和見病原体である。死亡例に関しては、青木真医師の「アシネトバクターは殺し屋ではなくて葬儀屋である」という表現が言い得て妙である。AB は、しかし、医療関連感染症(院内感染)の原因菌としては厄介ではある。すなわち、AB は、湿った場所にも乾いた場所にも生息する、いわば、緑膿菌と黄色ブドウ球菌の性質を併せ持った細菌である。細菌学的検査に際しても、本来はグラム陰性の桿菌であるが、染色所見が球桿菌状で、グラム陽性を呈することがあり、注意を要する。

AB を院内(環境・衣服・手指)に生息可能にしているのは、Drug(薬剤)耐性、Disinfectant(消

毒剤)耐性、Desiccation(乾燥)耐性、の3つのDである。

AB の3つのDに対抗するには、医療職者の3つのCが必要である。すなわち、Clean hands(清潔な手：手指衛生)、Communication(コミュニケーション)、Compliance(順守)、の3つのCである。

感染制御の基本は、標準予防策、とりわけ手指衛生(手洗いおよび手指消毒)の順守である。その際の鉄則は、従来の「1処置1手洗い」ではなく、「1処置2手指衛生」すなわち「処置の前後に手指衛生」である。

感染症対策には、「地球規模で考え、地域・現場で行動・実行する」という態度が必要である。その欠落が社会にいかなる災害をもたらすかは、身近な口蹄疫の実例を挙げるまでもないであろう。

## 気になる数値

宮崎市 <sup>もり</sup>森 <sup>のり</sup>憲 <sup>まさ</sup>正

色々のことが数量化されるようになった。辛ラーメン指数の発表をみて、味覚まで数量化されたかと疑ったが、マクドナルドのビッグマック指数やスターバックスのラッテ指数のようなもので、各国の通貨価値と相対的物価水準を比較するための数量化という。物事は数値化、数量化するとわかりやすい。「何でも鑑定団」は骨

董品の価値を金額の高低をもって表現するので判り易く、人気を呼ぶ理由であろう。山下清のように兵隊の階級で言えばわかりやすい時代もあった。

医学も自然科学の例に倣い、検体は勿論、症状なども数量化して、診断や治療法を決めることに慣れてきた。更年期指数や絨毛性疾患診断スコアなどはその類である。

複雑系の社会現象や政治の世界でも、数量化が流行る。情報収集に用いられるアンケート調査で得られる内閣支持率は内閣の命運を占う一つの指標となっている。しかし人間の感情、感覚の数量化にはまだ抵抗感がある。

最近、患者として医療施設にお世話になる機会が多くなり、待合室で待つ患者の気持ちがよく理解できるようになった。その気持ちを数量化するかのように厚生省は受療行動調査の満足度を発表している。この数値は平成8年から3年に一度発表されているという。これは満足度とは言いながら、満足と答えた人の割合を示すだけである。医療者側と患者との関係を改善していく上では有用かもしれないが、患者個人の感情の程度を示すものではない。体験として感じる主観的な質感を数値として示すことは現時点で難しいようで、そのまま受け入れることには問題がある。顧客満足度や幸福度なども同様である。

医療施設の外来は弱者社会の縮図であるように思われる。大きな施設での外来患者の満足度が58.3%という。この数値をどう受け止めるか、医療従事者不足で多忙を極める施設側と患者側ではその高低の評価は異ならざるを得ないが、患者個人の感情を満足させるようになって欲しいものである。

## 恐るべし韓国ドラマ

日南市 井藤耳鼻咽喉科 井 藤 健<sup>たけし</sup>

韓国ドラマを見ている妻が「最近ハマってるの、面白いよ！」韓国ドラマに全く興味なく、「勘弁してくれよ～」と思ったが、私も見たいテレビがないので冷めた目で一緒に見ていたが意外と面白い。BS、CSだから2本または3本を帯でやるから私もすっかりハマってしまった。韓国ドラマを見ていると名前の呼び方で疑問が出てきた。韓国の名字ランキング10位までで国民の60%の名字(日本では10%程度)を占めるそうだ。

個人を区別するためにフルネームで呼ぶのは理解できるのだが、ドラマでは夫婦でもフルネームで呼ぶこともあるし、時々肉親でもフルネームで呼ぶことがあるようである。なぜ身内でもフルネームで呼ぶのか？ドラマ上の設定なのか、現実の韓国でもそうなのか、気になってしょうがない。絶望的な私のヒアリング能力による勘違いかもしれないが…。娘(小2)も妻と一緒に韓国ドラマを見ており、字幕を見て内容を理解しようとしているが、読めない漢字やその意味を聞いてくるので字幕は教育上いいのかもしれない。また頻繁に出てくる「オンマー(お母さん)」や挨拶は覚えたようだ。

スーパーで妻が子どもたちのわがままを無視すると、長女はわがままを聞いてもらいたい一心で(妻を困らせたい?)「オンマー(お母さん)」と叫び、妻は周囲の注目を浴びて恥ずかしい思っているらしい。妻には悪いが「こいつやるな～」とってしまう。最近、家に帰るとほぼ毎日ハングル語がテレビから聞こえる。仕事と家事を両立する妻に「ハングル語勉強した



ら～」と尋ねると、「韓国オリジナルの子供服店や、ブティックが沢山あるから週末子供達をお願いして友達と行けるなら勉強するよ!」「目標がないと勉強しないからねー」だとさ。家族に影響を与える韓国ドラマ恐るべし!今、隣国は不穏でも我が家は幸せなことに平和です。今年不穏がなくなるよい年となりますように。

## 新 春 随 想

日南市 愛泉会日南病院 <sup>みね まつ とし お</sup>  
峰 松 俊 夫

昨年末に米航空宇宙局(NASA)などの研究チームが新しい細菌を発見したと発表した。米国の塩湖で採取された細菌「GFAJ-1」が、リンがない環境下で、核酸やタンパクのリンをヒ素に置き換えて生命を維持し、また増殖できるというものだった。

生物において遺伝子として機能する核酸は、リン酸基を含むヌクレオチドからなり、リン酸基同士の結合によって伸長する。また、核酸の材料ともなるアデノシン三リン酸(ATP)はリン酸基の結合エネルギーを生体エネルギーとして蓄えている。すなわち、リンがなければ、核酸やATPといった細胞に必須とされていた化学物

質ができない。一方、ヒ素は元素周期表でリンのすぐ下に位置しており、両者の物理化学性質は似ている。このことが生物学的にヒ素が猛毒となっている理由だった。

今までにヒ素を使って光合成を行う生物の存在は知られていた。しかし、「GFAJ-1」は核酸やATPに換えて、新たにヒ素化合物を産生・利用して増殖していたのだ。猛毒のヒ素を生体成分とする細菌は、今までに知られていた生物とは全く異質のナマモノ(生物)であるに違いない。エイリアン(Alien)は空想科学小説で異星人と訳されるが、『異質の』という意味もある。その意味では、NASAは『(地球上に存在する)エイリアン』を発見したことになる。

広大な宇宙に地球外生命体がいることは間違いないだろう。むしろ、地球だけに生命が存在することの方がより不思議ではないだろうか。今回の発見は、生物学の概念がビッグバンのごとく大きく膨らんだ瞬間となったと言えるだろう。さらに、『無生物と考えられていたモノが、実はエイリアン生物なのではないか。まだ我々が生物と認めていないにすぎないのでは』との思いをも巡らせられる。

今年はさまざまなモノを、今までとは異なった目で、生命を意識しながら見てみようと考えている。

## 少子高齢化社会には総合内科開業医が必要

日南市 きよひで内科 かわ の きよ ひで  
クリニック 河 野 清 秀

「埼玉の叔父が急に意識がおかしくなったので診てくれ」と昨年7月、兄からの電話があり、学会出張ついでに診察しました。叔父の診断は心不全、心房細動、糖尿病、多発性脳梗塞等でした。意識障害は低血糖に因るものでしたが、インスリン治療中にもかかわらず、自己血糖測定指導や食事指導はなく、また要介護状態にもかかわらず、介護保険の説明も受けていませんでした。心不全や心房細動はよく治療されていたので、叔父の話からするとかかりつけの病院の先生は心臓病の専門医で、その他は手が回らない感じでした。叔父や親類縁者は「付近の病院の先生は各疾患の専門家ではあるが、先生はとても忙しく、各疾患を説明する十分な時間がない。多病のある高齢者は不安である。診療所に頼るにも設備のある診療所はあまり無い」とのことでした。埼玉南部は70年代以降に急激な人口増加で、地価高騰しました。そのため設備の要る内科総合医は開業困難と考えました。現在でも地価は坪100万ほどです。この高地価で、しかも以前より相対的に低下している現在の保険診療単価では、内科総合医の個人開業は、日南では可能でも埼玉南部では困難です。近年の統計で埼玉は人口当たりの医師数は全国最低なものも肯けます。

世界的に評判のよい日本の医療システムを支えてきたのは、ある程度何でも診断や治療のできる、内科を中心とした開業総合医だと考えています。しかし内科総合医が開業困難ではこれ

から、多病、高齢化していく患者さんや地域、まして開業を考えている先生にとっても不幸です。これの解決には、坪当たり収益率を良くすることで可能となります。365日、朝7時より夜8時まで診療して、患者さんの利便性をよくさえすれば、患者さんの多い都会では医師の知名度ではなくても、システムで多人数の来院が望めます。これを医師3～4人で、担当医時間交代制で診療すれば医師は負担なく診られます。更に効率よく診療するために、電子カルテ等のITや医療秘書を徹底利用すれば、埼玉南部のような地価高騰地でも総合内科診療所開設は可能です。日本各地の開業困難な地に内科開業医という、ある程度、何でも診断、治療できる総合医を作り、これからの更なる高齢化社会に備えることが必要です。

## くじゅう山想

延岡市 長沼医院 なが ぬま こうざぶろう  
長 沼 弘三郎

うつうつとした日常からのがれるように11月2日こうして又、憧憬の大船山に入る。

前夜、大船山にまつわる“ひとうま譚”(白石一郎著)(江戸期 山好きの岡藩主の話)を再読。

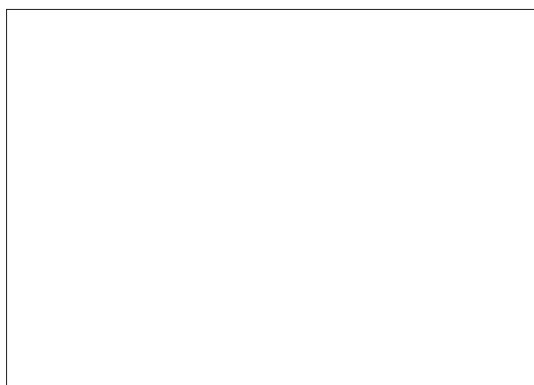
未明、南面から朱に染まった山体に向かって出立。

岳麓寺一鳥井ノ窪(入山公碑)を経て沖縄伊江島の城山(タッチー)のような山頂(1786.2m)へ。通り越して山のあなたのさらに向こうの坊がつるを目指す。そこには法華院温泉の山小屋があり、青春の一時期にはまった“坊がつる讃歌”の情景に心があらぶる。

同窓会誌で目にとまった一文。6歳2か月、弱ってきますな。

故郷の標高34m以上の山は全部踏破。全国津々浦々1,200以上登山。まだまだ登るつもり。

読むにつけ自分の登山経験と照らしあわせてみる。若い頃のくじゅうに始まった登山を思い返し、又くじゅうに回帰しようと心を新たにする。登山口が15か所以上、登山コースはそれ以上にあり全踏破に何年かかるかと考えるのに楽しい。



大船山上空からの“坊がつる”遠望

先に11月3日、快晴の中、ヘリコプター(ロビンソンR44)に機上し空中散歩。霧島、阿蘇五岳を経てくじゅうを俯瞰。錦秋の大船の山肌をなめるように飛ぶ。色さまざまの布片がつぎ合わされたパッチワークの鮮やかさに似る。“四面山なる坊がつる”は天上の箱庭。詩と歌と歴史に彩られたくじゅうに想いをはせて大船を周回、法華院温泉・千里ヶ浜・硫黄山・中岳・牧ノ戸峠

方面に飛ぶ。

12月5日、久住高原に滞在。手につかめそうな大船山・久住山のくっきりした稜線を地上から仰ぎ見る。

この1か月空から地上からくじゅうを堪能、あわせて登った。ヘリコプターから眼下に見下ろす風景は来世からの贈り物。登って山頂にたどり着く道程は目線の高さの現世、地上からの眺めは先人も見た過去のままの山姿か。

“ひとつま譚”のおち。藩主を背負って大船山頂に登った軍蔵の宴席での一言のつぶやき“ばかりしか”。私の田舎でばばかんごたる”と言う。山登りもその範疇で片付けられる?しかし、その一点を認めたらあらゆる人生の営みにいったい何の意味があるのか。これから自分の足でくじゅう山中を訪ね歩き山籠りもしよう。

## 憂国

都城市 佐々木医院 佐々木 幸二

昭和19年生まれの姉が翌20年8月ソ連軍満州侵攻のとき母の背で死んだ。父は其の事を知らされずシベリヤで抑留、昭和24年に帰国した。その年が我が家にとっての終戦の年で、日本が一番貧しかった年だ。その2年後に僕は生まれた。

国家存亡にかかわる利益のためにと戦ったが、僕の大好きな零戦も隼も戦艦大和も日本を守れなかった。日本敗戦という結果に魂を打ち拉がれた日々の中で、大半の国民は荒廃や混乱の中、ある種の感情の共有で繋がっていた。昭和 2年日本は独立したが、国民は失意の底から這い上がろうと藻掻いていた。

かつて体の小さな日本人は勝つために心を鍛え、戦略を練った。新渡戸稲造が記す母から学んだ武士道の心。嘉納治五郎の Mind over muscle。外国に物怖じしない石原莞爾の最終戦争論。東郷平八郎は丁字戦法(東郷ターン)でバルチック艦隊に勝ち、撃墜王であった加藤隼戦闘隊の黒江保彦は振子戦法でスピットファイアを落とした。アメリカの占領下で戦前の教え、通念は否定されたのか？日本人は弱かったのか？生きる道標を亡くした中で、若者たちは、苦し紛れに何かを求めていた…。

いつしかテレビっ子になった僕らは、英雄ものの月光仮面、ハリマオに自分を投影し、鉄腕アトムに夢を託し、柔道一直線、巨人の星、等の根性ものに男の生き方を見出し、外国人プロレスラーが劣勢になると喜んだ。東京タワーに未来を確信し、東京オリンピックの開催は国民に再び自信をつけ、日本の太陽はもう沈まないと誰もが思った。科学技術、医学、エレクトロニクス、都市工学などあらゆる分野が飛躍的に進歩し、僕らの成長は右肩上がりの経済が保障してくれるかの如く思えた。まるで自分が時代の波の先端に居るような錯覚。米英に憧れ、ベンチャーズに酔い、ビートルズに狂い、昭和元禄を堪能した。振り返ると、最高に面白い時代だった。もはや、敗戦の屈辱を忘れ、気がつけばバブルに溺れてしまった。国家主義はなく、

生活保守主義者の群れと化した。僕らはまるで「ウサギとカメ」の兎だった。

高度成長期には、先進諸国の仲間入りをするため、頑張った先人たち 命をかけて守ってきたもの その原動力は何だったの？日本は大きく経済成長した。テクノロジーは世界トップレベルになった。でも失ったものは継承されるべき代々の教え。人間として生きる道、義、勇、仁、礼、誠、名誉、忠義など否定した訳ではないのだが…学校では教えないし、核家族化ゆえ途絶えそうになった。得たものは合理主義、便利屋さんがベンチャー産業になり、レジャー産業の発展で人は趣味を多く選べるようになり、途方もないゆとりが得られた。ストレスから解放され、楽を好むようになり、3Cの神器はリモコン化、オートメーション化し、すべての国民が中流意識を持ち、自己主張はするが、自由という名のもとに酷な仕事をしない。僕らはそういう日本人になった。ITは世界中の情報を瞬時に捉え、土俵を一つにした。金融市場のグローバル化は、生産労働市場を人件費の安い中国に持って行った。900兆円を越した赤字国債を少子高齢化の日本がどうするの？

元来日本人は勤勉だったはずだが…日本人には贅沢は似合わない…この際、野中兼山が奨励する質素儉約を各人が実践しなければいけない。儉約遺伝子を欧米人より多く持っているのだから…戦後の日本をリードするべく生を受けた(敗)戦後世代、腰抜けになってないか？日本独立から 60年経た今日、敗戦の皺寄せが今となってジワリと身に滲みる。僕らは責任を果たしたのだろうか？祖先に対して、また来るべき子孫に対して…日本が其処にネジを忘れたなら探しに戻ろうか…辛くても笑顔で。

## 雪の思い出

都城市 宮崎県健康づくり協会 とび まつ のり お  
都城事業所 飛 松 憲 夫

何時の間にか私も高齢者の一人となったが、  
今までの長い人生の中には色々と珍しい貴重な  
現象などを経験するものをつくづく想うもので  
ある。

昭和 38 年冬、航空自衛隊小松基地(石川県)に  
在任中、例の 38 豪雪に遭遇し体験した。雪景色  
と云えば真白な静かな美しい情景を想像してい  
た私は完全に降参した格好である。多少の支障  
ではなく人間生活が完全にストップするのでは  
と思う程だった。夜降った雪が日中溶けるなん  
てものでなく、数日で 1 m 近くなり、車両の運  
行は停止して清掃車の汲み取り、食料品、灯油  
の配達も滞る始末で徒歩出勤が精一杯である。  
そのうち障子襖が動かなくなって屋根の雪降し  
も 2 回以上実施した。やがて豪雪に閉じ込めら  
れた山岳麓への災害派遣の要請も来る様になっ  
た。当然の事ながら救護員 3 ～ 4 名を乗せて大  
型ヘリの出動である。現地に着いても着陸が難  
しく、ヘリコプターをホバリングして貰って、  
カンジキ履いて跳び降りるのだが脚がスッポリ  
沈んでしまう。雪中の移動では雪崩の危険を避  
けながら慎重に歩く。目的の家に着くと雪が軒  
の高さまで積っているので、家の入口まで急角  
度に除雪されたトンネルに近い階段を降りるの  
である。屋内は充分に暖がとれていてホッとし  
た。雪国を知らない私にとっては十分な恐怖感  
を味わった事実である。この様な事態が雪国で  
はしばしば起こり得るだろう事は容易に想像が  
つく。寒冷地で雪などで人間動きがとれなくな  
ると即凍死に繋がるものと思い知ったものであ

る。南国都城に生れて良かったと痛感した次  
第である。因みに昭和 38 年卯年で年男 36 歳で  
あったが、今年も卯年で年男 84 歳である。

## 年女の誓い

### 12 年間の恩恵に報いるには

宮崎市 はた産婦人科医院 はた 秦 ひろ 博 子

今から 12 年前、米国から帰国した私は「7 年ぶ  
りに臨床現場に戻る」という無謀な選択をしまし  
た。それまで育児を理由に、手術、分娩は勿論、  
外来も検診業務もせず、学会にも参加せず、完  
全引きこもり状態(専業主婦生活)だったのに！  
です。

復帰当初は医局での居場所の無さ、後輩の上  
司達との微妙な距離感、また、諸先生方の厳し  
い(熱心な)指導に付いて行けず、一人トイレで  
泣いて、落ち込む日々でした(笑)。しかし！「仕  
事の出来ないオバサン」と一緒に働く羽目になっ  
た彼等こそ被害者で、私と過ごす日々はストレ  
ス以外の何者でもなかったに違いない、と、当  
時を思い出す度に申し訳なく感じております。  
それでも忍耐強く指導してくれた先生方、そし  
て、私への不満を聞きながらも彼等をなだめ、



見捨てる事無く再教育をして下さった教授、准教授、人事異動の度にご迷惑をかけた医局長の方々に、今更ながら感謝の気持ちで一杯です。

また異動先の県立宮崎病院 N ICU では、小児科を始め、他科の先生方(産婦人科、外科、麻酔科、眼科、皮膚科、放射線科の先生方ご迷惑おかけしました)及び薬剤部、検査部とドクター以外の方々からもご指導頂きました。ここで、医療技術だけでなく、経済的理由(行政的理由)で、高次医療機関でありながら、救える命が救えない！という現実、日々歯がゆい思いを抱いて診療されている先生方の熱い思いに触れ、医療経済に対する自分の認識の甘さを実感しました。

私の祖父の時代、公的病院は市内に県立宮崎病院しかなく、祖父は県病院退任後も、分娩だけでなく、癌治療も自分の病院で手がけていた、と聞いています。父の県病院勤務時代、大学病院も N ICU 施設も無い中、早産児の交換輸血のため、職員自らが運転をして福岡から血液を運んでくれた、と聞きました。今や大学病院も医師会病院も出来、医師の数も増え、技術力も上がっています。なのに、皆が疲弊しています。これを打破する道は無いものか？この道を模索し、次の世代に引き継ぐ事が、この 12年間に沢山の先生方から恩恵を受けた私の義務、と感じる今日この頃です。頑張ろう！宮崎！！

## 1月のベストセラー

|    |                                     |                        |            |
|----|-------------------------------------|------------------------|------------|
| 1  | くじけないで                              | 柴 田 ト ヨ                | 飛 鳥 新 社    |
| 2  | もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら | 岩 崎 夏 海                | ダイヤモンド社    |
| 3  | 月と蟹                                 | 道 尾 秀 介                | 文 藝 春 秋    |
| 4  | 老いの才覚                               | 曾 野 綾 子                | ベストセラーズ    |
| 5  | 100歳までボケない 101の方法                   | 白 澤 卓 二                | 文 藝 春 秋    |
| 6  | 新神戸 愛と野望の殺人                         | 西 村 京 太 郎              | 新 潮 社      |
| 7  | ゴーストハント 2 人形の檻                      | 小 野 不 由 美              | メディアファクトリー |
| 8  | 謎解きはディナーのあとで                        | 東 川 篤 哉                | 小 学 館      |
| 9  | シンプルに生きる                            | ドミニック・ローホー著<br>原 秋 子 訳 | 幻 冬 舎      |
| 10 | KAGEROU                             | 齋 藤 智 裕                | ポ プ ラ 社    |

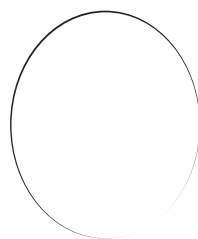
宮協書店本店調べ  
提供：宮崎店(宮崎市青葉町)  
☎ (0985) 23-7077

## エコー・リレー

(42 回)

(南から北へ北から南へ)

## ドリームにちりん随想

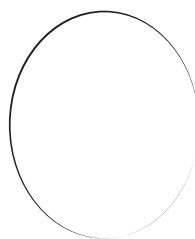
宮崎市 阿波岐ヶ原病院 まる やま ひで はる  
丸 山 英 晴

「平成 23 年 3 月 12 日」と聞いて、いよいよか！と思われる方は結構な鉄道通ではなかろうか。私もプチ鉄道ファンではあるが、鉄ちゃん鉄子と呼ばれるには遠く及ばない。私の場合、列車に乗っているのが好きなだけである。カタン

カタンというあの線路特有の継ぎ目の音を聞きながら、過ぎ行く車窓の景色をぼーっと眺めているのが好きなのである。従って学会等も極力鉄道を利用している。先日も週末に金沢まで研究会を兼ね学生時代の友人に会いに行ってきたが、当然？列車で往復した。出張時間 4 時間のうち、往復で約 20 時間は列車の中であった。“ドリームにちりん”という夜行列車を利用すると鉄路でも短期間で案外遠方まで行けるのである。金曜 23 時 47 分ドリームにちりんが宮崎発、小倉で朝一番の新幹線にて新大阪へ、北陸線サンダーバード乗換えで金沢着午前 1 時。帰りは日曜午後金沢を発ち逆ルート、小倉からは大分乗換えでソニック&にちりんを利用し夜宮崎着。東九州の点々とする街明かり、琵琶湖の湖面の輝き、戦国時代を彷彿させる近江の山脈。これまでもドリームにちりんを愛用してきた。が、今年 3 月 12 日から無くなるらしいのだ。九州新幹線全線開通に伴うダイヤ改訂で消えゆくことになったのだ。これからは超特急を利用せよとのことか？ゆっくりでも私にとっては有効に時間を使える旅のできる列車だったのだが。これも時代の流れか、残念。ところで冒頭の答えはもうお分かりですね。

[次回は、日南市の岡本 将幸先生にお願いします]

## 宮崎がん患者共同勉強会とブログ

宮崎市 おし かわ しょうた ろう  
押 川 勝太郎

自分は昨年過労で大学病院を辞職したが、在職中は、消化器がん化学療法では最初からがんと抗がん剤治療の仕組みを時間を取りきっちり説明していた。患者さんは、最初

は不安でも経験値が増すと治療がきつい時の誤解が減り、自己対処可能となる。病院依存も減り医師も楽になるのだ。

しかし一人で年間 30 人の新患、80 人の症例を診ていた自分は音を上げてしまった。

まとめて説明しようと月 1 回受持患者さんを集めて共同勉強会を 2008 年に作った。がん治療の戦友が多く出来てうれしいという声もあり、2009 年からは宮崎市郡医師会講義棟をお借りして県内各病院の患者さんも対象に広げた。前半にがん治療講義、後半は患者さんからの質疑応答だが、実に白熱する。各主治医の対応に疑問と不満が炸裂するのだ。多くは意思疎通不足による誤解で、推測の範囲で医師側の事情と誤解解消の説明、対応策を提供する。翌月うまくいったという報告を聞くのは楽しく、逆に新しいアイデアを教えてもらう事もある。

抗がん剤が効きやすい乳がん患者会が多いが、化学療法の発展で他の固形がん患者会も存続が可能となったのだ。また一般向けのがん治療指南ブログ(「がん治療の虚実」で検索してください)を始めて治療を受けるノウハウのデータベースも作った。全国のがん患者さん対象で医療不信に対する誤解解消と質疑応答で盛り上がっている。自分はこれらの応援団が育ち、化学療法の第一線に復帰する日を夢見ている。

[次回は、都城市の小林 浩二先生にお願いします]



## あなたできますか？

— 平成 21年度 医師国家試験問題より —

(解答は 59ページ)

1. 因果関係を推論するときのエビデンスレベルが最も低いのはどれか。
  - a 症例研究
  - b 介入研究
  - c 症例対照研究
  - d コホート研究
  - e メタアナリシス
2. 緩和ケアチームについて正しいのはどれか。2つ選べ。
  - a 遺族のケアも担当する。
  - b 心のケアの担当者が含まれる。
  - c 診断早期の患者は対象としない。
  - d 最終的な方針は医師が決定する。
  - e 病状を未告知の患者は対象としない。
3. 体重減少を生じやすいのはどれか。2つ選べ。
  - a 脳梗塞
  - b うつ病
  - c 狭心症
  - d 膵 癌
  - e ネフローゼ症候群
4. けいれんの原因部位が左右どちらにあるかの判定に有用なのはどれか。
  - a 幻 嗅
  - b 嘔 吐
  - c 意識低下
  - d 眼球偏位
  - e 口部自動症
5. 正しいのはどれか。2つ選べ。
  - a 上行性網様体賦活系は大腦に存在する。
  - b Broca野は感覚性言語野として機能する。
  - c 記憶の形成には側頭葉内側が深く関わる。
  - d パーソナリティの基礎をなす先天性の特性を気質という。
  - e 知能指数は生活年齢を精神年齢で除し、100を掛けたものである。
6. 過粘稠度(hyperviscosity)症候群でみられないのはどれか。
  - a 頭 痛
  - b 腰 痛
  - c めまい
  - d 視力障害
  - e 悪心・嘔吐
7. 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。
  - a 守秘義務
  - b 堕胎の禁止
  - c 無資格診療の禁止
  - d 無診察治療の禁止
  - e 死体検案書の交付
8. 胎生 16週の胎児の造血の場はどれか。
  - a 卵黄囊
  - b 肝 臓
  - c 脾 臓
  - d 骨 髄
  - e 胸 腺
9. 放射線感受性の高い腫瘍はどれか。
  - a 膵 癌
  - b 腎細胞癌
  - c Ew ing肉腫
  - d 悪性黒色腫
  - e 神経膠芽腫
10. 腹部大動脈から分枝するのはどれか。
  - a 上膀胱動脈
  - b 内腸骨動脈
  - c 子宮動脈
  - d 閉鎖動脈
  - e 卵巣動脈

## 宮崎県感染症発生動向 ～ 12 月 ～

平成 22 年 11 月 29 日～平成 23 年 1 月 2 日(第 48 週～ 52 週)

## ■全数報告の感染症

1 類：報告なし。

2 類：結核 18 例が宮崎市(7 例), 延岡(3 例), 都城・日南・小林(各 2 例), 高千穂・日向(各 1 例)保健所から報告された。患者が 1 例, 無症状病原体保有者が 1 例で, 患者は肺結核が 15 例, その他の結核(結核性胸膜炎, 肺結核腫)が 3 例であった。男性 13 例, 女性 5 例で, 20 歳代・30 歳代・50 歳代・90 歳代が各 1 例, 60 歳代が 2 例, 70 歳代が 5 例, 80 歳代が 7 例であった。

3 類：報告なし。

4 類：○ A 型肝炎 1 例が宮崎市保健所から報告された。90 歳代の女性で全身倦怠感, 食欲不振, 肝機能異常がみられた。血清 IgM 抗体の検出。

○ つつが虫病 19 例が宮崎市(9 例), 都城・小林(各 4 例), 日南・高鍋(各 1 例)保健所から報告された。男性 10 例, 女性 9 例で 20 歳代・80 歳代が各 1 例, 50 歳代が 3 例, 60 歳代が 10 例, 70 歳代が 4 例であった。

5 類：○ ウイルス性肝炎 1 例が日向保健所から報告された。10 歳代の男性で B 型。全身倦怠感, 発熱, 肝機能異常, 黄疸がみられた。

## ■ 5 類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は 7,411 人(定点あたり 216.1)で, 前月比 227%と増加した。また, 例年と比べると 91%と減少した。

前月に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎, 伝染性紅斑, インフルエンザ, A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎, 水痘, 咽頭結膜熱, 流行性耳下腺炎, 流行性角結膜炎で, 減少した主な疾病はヘルパンギーナであった。また, 例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾病は伝染性紅斑, 流行性耳下腺炎, 手足口病, 咽頭結膜熱, A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎, 感染性胃腸炎, 流行性角結膜炎であった。

感染性胃腸炎の報告数は 4,141 人(115.0)で前月の約 3.2 倍, 例年の約 1.4 倍であった。日南(184.0, 小林(161.3, 中央(153.0)保健所からの報告が多く, 年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 4 割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は 140 人(3.9)で前月の約 3.2 倍, 例年の約 9.5 倍であった。中央(15.0, 高千穂(14.0, 都城(7.7)保健所からの報告が多く, 年齢別では 3 歳から 7 歳で全体の約 6 割を占めた。

インフルエンザの報告数は 465 人(7.9)で前月の約 3.1 倍であった。都城(24.8, 日向(15.5, 延岡(10.4)保健所からの報告が多く, 年齢別では 5 歳以下が全体の 29%, 6～9 歳が 25%, 10～14 歳が 13%, 15～19 歳が 4%, 20～50 歳代が 27%, 60 歳以上が 2%を占めた。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 600 人(16.7)で前月の約 2.5 倍, 例年の約 1.7 倍であった。延岡(65.8, 日南(18.0, 高鍋(17.8)保健所からの報告が多く, 年齢別では 3 歳から 6 歳で全体の約半数を占めた。

水痘の報告数は 633 人(17.6)で前月の約 2.2 倍, 例年の約 1.1 倍であった。宮崎市(27.7, 都城(21.3, 高鍋(18.0)保健所からの報告が多く, 年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 7 割を占めた。

咽頭結膜熱の報告数は 117 人(3.3)で前月の約

表 前月との比較

|             | 12 月       |              | 11 月       |              | 例年との比較 |
|-------------|------------|--------------|------------|--------------|--------|
|             | 報告数<br>(人) | 定点当<br>たり(人) | 報告数<br>(人) | 定点当<br>たり(人) |        |
| インフルエンザ     | 465        | 7.9          | 151        | 2.6          |        |
| RSウイルス感染症   | 443        | 12.3         | 373        | 10.4         |        |
| 咽 頭 結 膜 熱   | 117        | 3.3          | 81         | 2.3          | ★      |
| ※溶レン菌咽頭炎    | 600        | 16.7         | 241        | 6.7          | ★      |
| 感 染 性 胃 腸 炎 | 4,141      | 115.0        | 1,295      | 36.0         | ★      |
| 水 痘         | 633        | 17.6         | 285        | 7.9          |        |
| 手 足 口 病     | 114        | 3.2          | 104        | 2.9          | ★      |
| 伝 染 性 紅 斑   | 140        | 3.9          | 44         | 1.2          | ★      |
| 突 発 性 発 し ん | 191        | 5.3          | 159        | 4.4          |        |
| 百 日 咳       | 8          | 0.2          | 2          | 0.1          | ★      |
| ヘルパンギーナ     | 9          | 0.3          | 10         | 0.3          |        |
| 流行性耳下腺炎     | 439        | 12.2         | 336        | 9.3          | ★      |
| 急性出血性結膜炎    | 0          | 0.0          | 0          | 0.0          |        |
| 流行性角結膜炎     | 107        | 17.8         | 68         | 11.3         | ★      |
| 細菌性髄膜炎      | 1          | 0.1          | 0          | 0.0          |        |
| 無菌性髄膜炎      | 1          | 0.1          | 0          | 0.0          |        |
| マイコプラズマ肺炎   | 2          | 0.3          | 1          | 0.1          |        |
| クラミジア肺炎     | 0          | 0.0          | 0          | 0.0          |        |

★ 例年同時期(過去 3 年の平均)より報告数が多い

※ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎



1.4倍、例年の約 1.8倍であった。日南(13.3)保健所からの報告が多く、年齢別では6か月から3歳で全体の約 6割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は 439人(12.2で前月の約 1.3倍、例年の約 2.5倍であった。日南(44.3)、延岡(25.5)保健所からの報告が多く、年齢別では2歳から6歳で全体の約 7割を占めた。

手足口病の報告数は 114人(3.2で前月の約 1.1倍、例年の約 1.9倍であった。都城(10.2)保健所からの報告が多く、年齢別では1歳から3歳で全体の約 8割を占めた。

流行性角結膜炎の報告数は 107人(17.8で前月の約 1.5倍、例年の約 2.8倍であった。宮崎市(29.7)保健所からの報告が多く、年齢別では10歳未満で全体の約 3割、30歳代で全体の約 2割を占めた。

## ■月報告対象疾患の発生動向〈12月〉

### □性感染症

【宮崎県】定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は 41人(3.2で、前月比 89%と減少した。昨年 12月(3.9)の約 8割であった。

#### 《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数 21人(1.6で、前月の約 8割、前年の約 6割であった。宮崎市(2.9)、都城・日向(2.0)保健所からの報告が多く、男性 10人、女性 11人で、20歳代が全体の約 6割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数 10人(0.77で、前月の約 1.1倍、前年の約 2倍であった。男性 3人、女性 7人で、30歳代と 40歳代が全体の約 6割を占めた。
- 尖圭コンジローマ：報告数 5人(0.38で、前月の約 1.3倍、前年の約 1.7倍であった。男性 4人、女性 1人で、20歳代が 2人、10歳代・30歳代・40歳代が各 1人であった。
- 淋菌感染症：報告数 5人(0.38で、前月と同数、前年の約 6割であった。すべて男性で、20歳代が 2人、10歳代、40歳代、50歳代が各 1人であった。

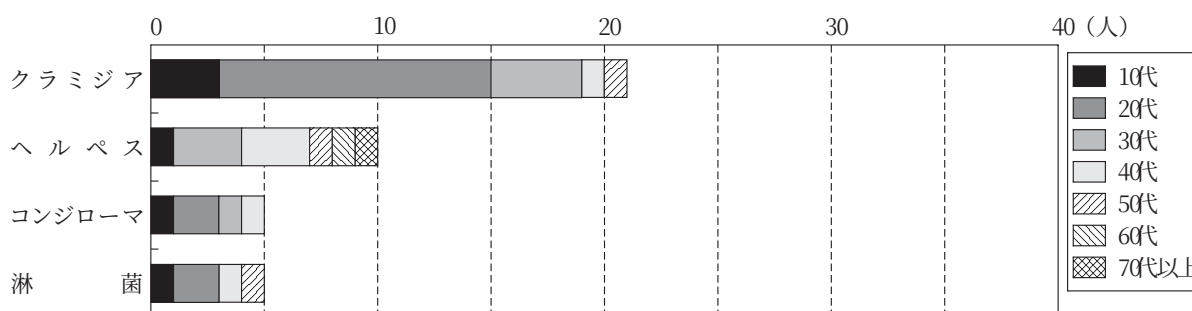


図 年齢別性感染症報告数(12月)

【全国】定点医療機関総数：967

定点医療機関からの報告総数は 3,812人(4.0で、前月比 93%であった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症 1,930人(2.0で前月比 91%、性器ヘルペスウイルス感染症 704人(0.73で前月比 103%、尖圭コンジローマ 373人(0.39で前月比 89%、淋菌感染症 805人(0.83で前月比 103%であった。

### □薬剤耐性菌

【宮崎県】定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は 25人(3.6で前月比 60%と減少した。また昨年 12月(6.7)の約半数であった。

#### 《疾患別》

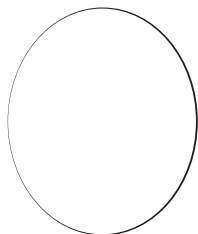
- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数 19人(2.7で、前月の約 6割、前年の約 7割であった。延岡(7.0)、宮崎市・高鍋(各 5.0)保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約 7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数 5人(0.71で、前月の約 6割、前年の約 3割であった。宮崎市・高鍋(2.0)保健所からの報告が多く、10歳未満で全体の約 6割を占めた。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数 1人(0.14で宮崎市保健所からの報告であった。患者は 70歳以上の女性であった。

【全国】定点医療機関総数：468

定点医療機関からの報告総数は 2,377人(5.1で、前月比 98%であった。疾患別報告数はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 1,777人(3.8で前月比 94%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 555人(1.2で前月比 118%、薬剤耐性緑膿菌感染症 45人(0.10で前月比 91%であった。(宮崎県衛生環境研究所)



## メディアの目



## 嗚呼、青太スマイル

時事通信社宮崎支局長

いわ した こういちろう  
岩 下 耕一朗

健康目的で朝、ゆっくりジョギングを始めて約 3 年。単身赴任で宮崎に来て 1 年半。県庁前の楠並木通りや大淀河畔をゆっくり走ったり、歩いたり何とか続けてきた。フルマラソンは無理だがハーフは一昨年の青太を含め 2 度完走した経験がある。猛暑の夏場も早起きしてそれなりに練習を積んできた。昨年の大会に「今年も完走するぞ」と張り切って参加したのだが。

12 月 12 日、日曜の早朝 5 時、スタート、フィニッシュ地点である県運動公園に到着。単独で参加の自分にはマイカーが待機場所としてははずせない。トイレに近い場所に車を停め暖かいお茶を飲んでリラックスしようとした。

しかし身体が少しだるい。微熱があるようだ。今年はよく風邪をひく。実はレースに向けて少し減量した。その分抵抗力が落ちたのではないか。レース中に気温は上昇するとの予報が出ている。走っていたら身体も暖まってくるだろう。ふくらはぎを伸ばして軽く走った。まだだるい。ハーフマラソンのスタート地点にランナーが集合した。自分は後方に位置取りしてスタートした。

サンマリンスタジアムの周回コースをゆっくり走り出したが、身体が重くスピードが上がらないことに気付いた。ぬいぐるみを着たランナーに追い抜かれた。追いかけるがついてゆけない。沿道で多くの人が声援を送っている。「知り合いがいたら格好悪いな」と思いつつその間を抜けていく。バイパスへの進入道路となっている坂道を上る。ここで 1 キロ。ストップウォッチでペースを確認する。近くにいた係員の方が心配そうに近づき「大丈夫ですか」と声をかけてくれる。まずいと思ったが「大丈夫です」と返す。バイパ

スにランナーの列が続いている。前のランナーとの距離が開いた。呼吸のリズムを整え自分のペースを作ろうともがいてみるが足があがらない。「デュ、デュ、デュ」。最後尾のランナーの後ろにつく白バイのエンジン音が聞こえてきた。遅れたランナーを回収するバスの気配もする。あれに収容されるのはご免こうむりたい。

5 キロ走った。ここでバイパスを一度降り反対側の車道にまわる。ほぼ 1 時間。歩いているようなペース。順位が最下位なのはかまわないがあと 15 キロ以上ある。途中棄権が頭をよぎる。「まもなくフルマラソンの先頭の選手が通過します」と沿道に告知する先導車が近づいてきた。昨年もこれを聞いた覚えがあるが随分先だった。フルマラソンの選手がものすごいスピードで追い抜いていった。9 キロ過ぎに飲料水を配るテーブルがあった。手をのぼすと係員の方に「フルマラソンの選手が取るので横に下がってください」と言われた。

11 キロ走って県運動公園に戻ってきた。ここで係員の方に呼び止められた。制限時間オーバーでレースを止めなければならないことを知った。ゼッケンに貼り付けられたフィニッシュタイムを計る計測チップをむしりとられた。自分が走れなかったのだから仕方がない。「また頑張ればいいさ」と思いつつもショックだった。

これも個人の趣味の世界。何も深く考えることはないが、今回は「青太スマイル」を実感できなかったことに悔いが残る。次回も挑戦するかどうか、すっかり起きるのがつらくなった朝、布団の中で決められるのはまだ少し先になりそうだ。

宮崎県国民健康保険診療報酬審査委員名簿  
(任期 平成 23年 1 月 1 日～平成 24年 12月 31日)

(○印は新任)

| 区分                         | 科 名     | 氏 名      | 所 属 名・職 名        | 区分                         | 科 名     | 氏 名      | 所 属 名・職 名                             |
|----------------------------|---------|----------|------------------|----------------------------|---------|----------|---------------------------------------|
| 保<br>険<br>医<br>生<br>代<br>表 | 内 科     | ○姫 路 大 輔 | 県立宮崎病院内科医長       | 保<br>険<br>医<br>生<br>代<br>表 | 整 形 外 科 | 税 所 幸一郎  | 国立病院機構都城病院統括診療部長・地域医療連携室長             |
|                            | "       | 富 田 雄 二  | 富田医院院長           |                            | 精 神 科   | 田 中 洋    | 田中病院院長                                |
|                            | "       | 橋 口 典 久  | 橋口医院院長           |                            | 皮 膚 科   | 津 守 伸一郎  | 古賀総合病院皮膚科部長                           |
|                            | "       | ○鵜 木 俊 秀 | 鵜木循環器科内科医院院長     |                            | 産 婦 人 科 | 濱 田 政 雄  | はまだレディースクリニック院長                       |
|                            | "       | 松 尾 剛 志  | 宮崎江南病院内科循環器科主任部長 |                            | 眼 科     | 中 村 彰 伸  | 中村眼科院長                                |
|                            | "       | 石 川 智 信  | いしかわ内科院長         |                            | 耳鼻咽喉科   | ○春 田 厚   | 春田耳鼻咽喉科医院院長                           |
|                            | 外 科     | 島 山 俊 夫  | 宮崎市郡医師会病院副院長     |                            | 歯 科     | 三 股 信 夫  | 三股病院                                  |
|                            | "       | 永 友 淳 司  | ながとも医院院長         |                            | "       | ○宮 谷 英 樹 | 宮谷歯科医院院長                              |
|                            | 整 形 外 科 | 佐 藤 信 博  | あたご整形外科院長        | 公<br>益<br>代<br>表           | 内 科     | 菊 池 郁 夫  | 県立宮崎病院副院長業務担当兼医療情報科部長兼内科医長            |
|                            | "       | ○川 野 啓一郎 | まつばし川野整形外科院長     |                            | "       | 佐 藤 祐 二  | 宮崎大学医学部第一内科助教                         |
|                            | 精 神 科   | 井 上 雅 文  | 井上病院             |                            | "       | 石 川 恵 美  | 県立宮崎病院内科医長兼栄養管理科部長                    |
|                            | 皮 膚 科   | 成 田 博 実  | フタバ皮膚科形成外科医院院長   |                            | 神 経 内 科 | 湊 誠一郎    | 県立宮崎病院神経内科部長兼医長                       |
|                            | 泌 尿 器 科 | 蓑 田 国 廣  | みのだ泌尿器科医院院長      |                            | 小 児 科   | 西 口 俊 裕  | 県立宮崎病院小児科部長                           |
|                            | 眼 科     | ○中 崎 秀 二 | 県立宮崎病院眼科医長       |                            | 外 科     | 内 山 一 雄  | 県福祉保健部(国保指導監査専門医)・九州厚生局宮崎事務所(社保指導専門医) |
|                            | 歯 科     | 中 原 則 光  | 中原歯科医院院長         |                            | "       | 豊 田 清 一  | 県立宮崎病院院長                              |
|                            | "       | ○藤 木 毅   | 藤木歯科医院           |                            | "       | ○甲 斐 眞 弘 | 宮崎大学医学部第一外科講師                         |
| 保<br>険<br>者<br>代<br>表      | 内 科     | 中 村 周 治  | 平和台病院院長          |                            | 脳神経外科   | 上 原 久 生  | 宮崎大学医学部脳神経外科講師                        |
|                            | "       | ○弘 野 修 一 | ひろの内科クリニック院長     | 保<br>険<br>者<br>代<br>表      | 心 臓 外 科 | 湯 田 敏 行  | 県健康づくり協会健診部長                          |
|                            | "       | 黒 木 和 男  | 串間市民病院院長         |                            | 整 形 外 科 | 阿久根 広 宣  | 県立宮崎病院整形外科部長兼医長                       |
|                            | "       | 鈴 木 斎 王  | 宮崎大学医学部医療情報部准教授  |                            | 産 婦 人 科 | 山 口 昌 俊  | 宮崎大学医学部産科・婦人科講師                       |
|                            | 小 児 科   | 三 宅 和 昭  | 三宅小児科医院院長        |                            | 耳鼻咽喉科   | 植 木 義 裕  | 県立宮崎病院耳鼻咽喉科医長                         |
|                            | 外 科     | 落 合 隆 志  | 延岡市医師会病院院長       |                            | 泌 尿 器 科 | 野 瀬 清 孝  | 宮崎大学医学部泌尿器科講師                         |
|                            | "       | 山 下 兼 一  | 山下医院院長           |                            | 歯 科     | 迫 田 隅 男  | 宮崎大学医学部医学部長                           |
|                            | "       | 峯 一 彦    | 県立日南病院副院長総括兼外科部長 |                            | 薬 剤 師   | 末 永 啓 二  | 県立宮崎病院薬剤長                             |

## 各郡市医師会だより

## 宮 崎 市 郡 医 師 会

医療の専門化・高度化が進み、大学病院や県立病院などの大病院がある宮崎東諸県医療圏における宮崎市郡医師会病院の立場は厳しくなっています。会員のあらゆる要望に応える病院づくりが理想ですが、そのために必要な医師の確保自体が困難な状況があります。隣接する小児診療所と夜間急病センターと含めて、会員、自治体そして大学と今後も連携を緊密にしていく必要があります。

看護学校は専門課程・高等課程ともに定員を満たし、卒業生は県内の地域医療、地域保健の場で活躍しています。しかし、補助金の削減、講師選定、施設の老朽化など問題を抱えています。検査センターは民間との競合と保険点数削減により苦しい状況が続いていますが、細菌検査やホルター心電図など会員の利用が多い分野もあります。今年度は医師会病院からの検査依頼が順調なことで収支を保っています。検診センターは収入が最盛期の約半分になっていますが、ホテル宿泊を利用した泊りドックを開始するなど営業努力を行い、特定健診データの電子化入力など新たな事業を引き受けています。

公益法人改革に向けて、宮崎市郡医師会は行っている事業を自ら見直し、会員に周知するために昨年 6 月会員案内を発行しました。医師会事務局、看護学校、検査・検診センターと病院施設が離れている現状は効率面・人材面で問題があります。医師会事業が地域医療の中で真に公益事業であるならば、住民・会員の理解を得て、将来に向けて前進できると考えています。

(市来 能成)

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

## 都 城 市 北 諸 県 郡 医 師 会

都城市と共同で策定した都城地域健康医療ゾーン整備基本構想・基本計画に基づき、新病院、新救急医療センター、新健康サービスセンターを一体的に整備して、都城 IC 付近に移転します。その建築設計がいよいよ平成 23 年 4 月からスタートします。今後 30 年以上地域に役立ち、地域の人々に愛される施設を建設しなければなりません。身の引き締まる新年です。(田口 利文)

◇ ◇ ◇ ◇

## 延 岡 市 医 師 会

昨年、当医師会で取組んでいる消化管出血・脳梗塞輪番制が一年余を経過し、輪番医療機関の先生方と検証を行いました。限られた施設で

の輪番体制であり、ご無理をされている状況の中で多くの問題点も浮き彫りとなりましたが、改善されぬ県立病院医師不在の中では継続も止むを得ない状況です。しかしながらただ一人の辞退も無く、むしろ前向きなご意見を頂いたことはただ感謝あるのみでした。また本年 4 月からは小児科の休日在宅当番医について日向市東臼杵郡医師会と合同で広域的対応を行うこととなりました。これは小児科の先生方のご負担を軽減するというよりも、減少傾向の続く医療資源の中で、現在行っている乳幼児における休日在宅当番医を全ての休日に施行しているというサービスを維持したいという思いで計画されています。うまくいくことを願うばかりです。

(平野 雅弘)

◇ ◇ ◇ ◇

## 日向市東臼杵郡医師会

遅蒔きながら年末の 12月 4日、当医療圏域の東九州道路門川日向間が開通した。宮崎までの開通にはまだ 3年を要するが、宮崎自動車道が開通してから 3年後の高速道路の建設である。受益者負担と称したガソリン税を 30年間納めてきた者にとって、その思いは複雑である。当医療圏域の南部地域にあってはこれまでの国道 10号線を利用した場合に比べて、県立延岡病院へのアクセス時間が 10分程度短縮された。宮崎までの全線が開通すると、大学病院への所要時間が 20分は短縮されることになり、救急医療にとって、そのメリットは非常に大きいものがある。また、県北の北川・佐伯間の工事の進捗状況も順調であり、開通すると大分市・福岡市までのアクセスが飛躍的に向上する。県北もようやく高速道時代の幕開けを迎えた。地域産業振興の視点からは経済効果も期待されるが、地方の消費力を近隣の主要都市に吸い上げられる所謂「ストロー効果」も懸念されるところである。いずれにしても、早期の全線開通が望まれる。

(渡邊 康久)

◇ ◇ ◇ ◇

## 児 湯 医 師 会

毎月西都医師会病院の夜の診療に行っておりますが、この 2年間 1月の当直でインフルエンザをもらって帰りました。今年の 1月当直日は、スタッフからしつこく用心するように言われました。幸い児湯地区ではインフルエンザは流行しておらず、無事治りました。最近では早く起きて、朝食はしっかり摂るようにしています。早起きすると、自然と早く寝ようと行動します。最近では冷たい朝でもさっと起床でき、体調はよくなった気がします。児湯地区で昨年は体調をこわし、入院加療された先生が何人かおられました。自分の身体をさておき、激務を続けた結

果だと思います。患者さんの健康のためには、自らの体調管理も大事だと最近ひしひしと思っています。(永田 昌彦)

◇ ◇ ◇ ◇

## 西 都 市 ・ 西 児 湯 医 師 会

西都医師会病院の西都市(新法人)への移譲は、昨年末の西都市との交渉、医師会総会の議決を経て、一つの山を越えましたがまだまだ多くの事務手続きが残っているようです。医師会病院移譲に関しては様々な評価や意見があると思いますが、30年間にわたり地域救急医療中核として西都救急病院(現西都医師会病院)を設立運営してきた西都市・西児湯医師会諸先輩方の業績(特に歴代会長の命を削るような努力)は本当に偉大なものでした。(岩見 晶臣)

◇ ◇ ◇ ◇

## 南 那 珂 医 師 会

先頃、当医師会、行政、県立日南病院、日南市立中部病院、日南保健所や市民代表が参加して、今後 2回開かれる予定の地域医療問題の懇話会の初回が開かれました。当医師会では日南市初期夜間急病センターの 36日の協力の実績を踏まえて、地域医療の問題を積極的に発言していきます。(河野 清秀)

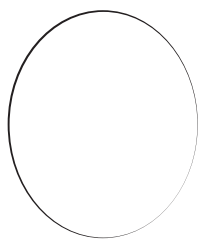
◇ ◇ ◇ ◇

## 西 諸 医 師 会

小林市立病院の医師不足問題を契機に、西諸医師会と行政の連携が充実してきています。西諸の二市一町で構成された西諸地域医療対策連絡会の会長に西諸医師会の遊木事務局長が就任いたしました。地域医療の崩壊を行政や地域がやっと認識してきており、西諸医師会も地域医療の再生に向けて、会員一丸となり協力していきます。(丹 光明)



## 宮崎大学医学部だより

外 科 学 講 座  
ー泌尿器科学分野ーかもと としゆき  
賀本 敏行 教授

宮崎大学泌尿器科学講座は石澤靖之先生を初代教授として昭和 52 年 4 月に開講しました。昭和 63 年 3 月に二代目教授として長田幸夫先生が、平成 2 年 5 月に三代目教授として賀本敏行先生が就任され、今年で 3 年目を迎えました。現在教室

員は 25 名で、大学は賀本敏行教授のもと、野瀬清孝講師、井上勝己講師、分田裕順(医局長)、上村敏雄(病棟医長)、向井尚一郎(外来医長)、下村貴宏、月野浩昌、鬼塚千衣(以上助教)、後藤崇之、山崎浩司、押川英央、藤井将人(以上医員)が、診療、研究に日々邁進しております。

関連病院として県立宮崎病院に長野正史・別納弘法、県立延岡病院に山下康洋・高森大樹、県立日南病院に永井崇敬、藤元早鈴病院に柴田憲彦・杉江悟、野崎東病院に小林隆彦・岩本秀安、千代田病院に永田豊春、原三信病院(福岡市)に木田和貴、新村病院(鹿児島市)に上別府豊治が出向し、それぞれの地域に根ざした診療を行っております。

大学病院での診療体系ですが、外来は原則として火曜、木曜日が初診日、月曜、金曜日が再診日で泌尿器科全領域の診療を行っており、迅速かつ正確な診断および治療が行われるべく努力をしております。

入院診療においてはしっかりしたインフォームドコンセントを行い QOL を重視した良質な医療を提供できるよう努めております。平成 8 年より始めた腹腔鏡手術は副腎腫瘍や腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍、前立腺癌等に対し施行しています。特に前立腺癌に対する腹腔鏡手術は平成 22 年には当附属病院は施設認定も取得しております。なお腎部分切除術、腎盂尿管移行部狭窄症に対する腎盂形成術、尿管皮膚瘻造設術も腹腔鏡手術に積極的に取り組んでおり、症例を重ね現在では 350 例を超えました。年間 70~80 例の症例に対し施行し、術後の早期離床や入院期間の短縮に

つながっております。日本泌尿器科学会泌尿器腹腔鏡技術認定医は現在関連病院を含め 5 名取得し、今後の取得を目指し手術前後の検討会を行っております。

近年 PSA の普及に伴い前立腺癌の症例数が増加してきていますが、それに伴い早期発見症例も増え、個々の症例を細かく検討し根治的前立腺全摘術や放射線治療、ホルモン療法、監視療法、精巣摘除術などを行っております。また前述のように前立腺癌の治療においても開腹手術のみではなく、腹腔鏡下手術の選択肢も増えました。また停留精巣や水腎症、尿道下裂などの先天性疾患に対しても積極的に治療を行っており、上村助教、鬼塚助教を中心に毎年 70~80 症例の手術を施行しております。

研究面においては賀本教授を中心に泌尿器癌研究を行い、前立腺癌、膀胱癌に関しては国内外の施設との共同研究も行っております。医療連携に関しては、月野助教を中心に「宮崎県泌尿器科医療連携の PSA パス」として、まずは前立腺癌における体制作りを目指しているところであります。

臨床的研究としては若年者の浸潤性膀胱癌に対しては術前化学療法を行った上での根治手術を行っており、根治性を十分に挙げることが出来るようになってきております。また再発をきたした尿路上皮癌に対してはセカンドおよびサードラインの化学療法までとりいれ、延命をはかっております。ホルモン抵抗性となった前立腺癌に対する化学療法も歯科口腔外科の先生のご協力を仰ぎながらビスフォスフォネート製剤を積極的に使用し、徐々に効果を認めつつあります。また進行性腎癌や再発症例に対しては分子標的薬が標準的治療となってきたり、新薬が次々と使用出来るようになり、今後ますます使い分けに関してはより深い知識が必要となってくると思われます。

賀本教授の新体制のもと今年度は 3 名の若い先生が入局いたしました。宮崎県全体としては慢性的なマンパワー不足、医局員の高齢化が問題となる中、若く精力的に診療される賀本教授を中心にそれぞれの医局員の専門分野をフルに活用し、効率の良い医療で今後益々大学病院の診療、研究、教育を充実させていきたいと考えております。

(医局長 分田 裕順)



## 薬事情報センターだより (285)

## 新薬紹介(その 43)

今回は 12月に薬価収載されたドライアイ治療剤ジクアス点眼液 3%(一般名:ジクアホソルナトリウム)と持続性選択H<sub>1</sub>受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤ザイザル錠 5mg(一般名:レボセチリジン塩酸塩)について紹介いたします。

ジクアス点眼液 3%(一般名:ジクアホソルナトリウム)

ジクアホソルナトリウムは、ドライアイ治療に対し新規の薬理作用を有する世界初のP2Y<sub>2</sub>受容体作動点眼剤です。ドライアイは眼不快感や視機能異常を伴う涙液および角結膜上皮の慢性疾患ですが、ジクアホソルナトリウムは、結膜上皮および結膜杯細胞膜上のP2Y<sub>2</sub>受容体に作用し、細胞内のカルシウムイオン濃度を上昇させることにより、水分およびムチンの分泌を促進させることで眼表面の環境をより正常な状態に近づけ、ドライアイの症状および角結膜上皮障害を改善すると考えられています。

ジクアホソルナトリウムは、米国のインスパイア社で開発されたジヌクレオチド誘導体です。本邦においては、参天製薬株式会社が導入し、ドライアイ患者を対象として臨床試験が行われました。その結果、フルオレセイン染色スコア改善を指標とした角膜上皮障害改善効果、ローズベンガル染色スコア改善を指標とした角結膜上皮障害改善効果が示され、また、長期点眼試験において、その効果の維持および安全性が確認されました。これらの試験をもとに、2010年4月に「ドライアイ」を効能・効果として製造販売承認がされ、12月に発売されました。

国内臨床試験において、副作用(臨床検査値異常変動を含む)発現頻度は23.7%(総症例653例中153例)でした。主な副作用は、眼刺激感44件(6.7%)、眼脂31件(4.7%)、結膜充血24件(3.7%)、眼痛18件(2.7%)等でした(承認時)。

ザイザル錠 5mg(一般名:レボセチリジン塩酸塩)

レボセチリジン塩酸塩(以下、レボセチリジン)は、ラセミ体であるセチリジン塩酸塩(以下、セチリジン)のR-エナンチオマーです。レボセチリジンは、もう1つのエナンチオマーであるデキストロセチリジンと比べ、ヒトヒスタミンH<sub>1</sub>受容体に対する親和性が30倍高く、解離速度は緩徐です(解離半減時間はデキストロセチリジンの7分に対してレボセチリジンは115分)。

レボセチリジンは、2001年にドイツにて承認されて以来、2010年5月現在では世界93か国でアレルギー性鼻炎(季節性アレルギー性鼻炎(SAR)、通年性アレルギー性鼻炎(PAR))および慢性特発性蕁麻疹(CUT)を適応症として承認されています。本邦においては、2010年10月に、7歳以上の患者さんを対象としてセチリジンと同様の効能・効果で承認され、12月に発売されました。なお、第2世代の抗ヒスタミン薬であるセチリジンは、本邦において、1998年に5mg錠と10mg錠が発売され、2006年に成人用ドライシロップ剤が発売されました。また、2009年には、ドライシロップが2歳以上15歳未満、5mg錠が7歳以上15歳未満の小児への用法・用量が承認されました。

成人のアレルギー性鼻炎及び慢性蕁麻疹を対象とした9つの海外臨床試験において、レボセチリジン塩酸塩5mgを投与した総調査症例1,292例中207例(16.0%)に副作用が報告されました。主なものは、傾眠67例(5.2%)、頭痛42例(3.3%)、疲労39例(3.0%)等でした(承認時)。なお、国内においては、レボセチリジン塩酸塩の有効性、安全性を検証する臨床試験は行われていません。

## 〈参考資料〉

ジクアス点眼液 3%, ザイザル錠 5mg各添付文書・インタビューフォーム

(宮崎県薬剤師会薬事情報センター

永井 克史)

## 日医 FAX ニュースから

## ■医療滞在ビザ「厳格な対応を要望」

— 中川副会長 —

中川俊男副会長は 12 月 22 日の定例会見で、外務省が来年 1 月から運用を始めるとした医療滞在ビザに対する見解を述べた。中川副会長は「医師は日本人患者と同様、外国人患者に対しても最善を尽くすべき」とする一方、「日医が懸念してきた医療への株式会社の参入、混合診療の全面解禁への突破口にもなりかねず、大変遺憾」と述べた。今後、人道的措置にとどめることや、倫理面、安全面などで厳格な対応を行うよう要望するとした。

## ●「医療ツーリズムに発展しかねない」

対象医療機関をすべての病院と診療所としたことについては、厚生労働省が外国人患者の受け入れのために、医療機関の認証制度整備に向けて 201 年度概算要求で予算を計上していることを挙げ「医療機関の格付けにつながる恐れがある」と指摘。入国する外国人の身元保証を医療コーディネーター会社や旅行会社などが担うとされていることにも触れ「民間資本が関与することが明示されている。これが拡大解釈され、営利企業が組織的に関与する医療ツーリズムに発展しかねない」と危機感を示した。その上で「皆保険を崩壊させる端緒とならないよう注視し、問題が生じれば即座に修正を求めていく」とした。

医療滞在ビザは有効期間が従来のビザの 3 か月から最大 3 年に延びるほか、1 回の滞在期間が 90 日以内の場合、有効期間内であれば必要に応じて何回でも来日できる。1 回の滞在期間が 90 日を超える場合は医療機関への入院が条件。また、必要に応じて外国人患者の同伴者の入国も認めるとしている。（平成 22 年 12 月 28 日）

## ■看護の省内 P T 設置に反対表明

— 日医と四病協 —

厚生労働省が看護師らの労働環境の改善に向けた省内プロジェクトチーム(P T)を設置したことに対し、日医と四病院団体協議会は 12 月 24 日、P T 設置に反対の意を示す申し入れ書を細川律夫厚生労働相らに連名で提出した。

藤川謙二常任理事は同日、省内で会見し「日本看護協会が 11 月 1 日に細川厚労相に陳情してから短期間で P T が立ち上がった。話が水面下で進んでいた」と述べ、他団体への配慮が足りないのではないかと認識を示した。さらに「雇用の質を考えるなら、勤務医の問題が最優先ではないか。雇用の問題は看護職員に特定せず、全体の業種を考えた検討が必要。看護を先行させることで医療全体にひずみを生む」と指摘した。P T のテーマに診療報酬上の対応が取り上げられていることについては「中医協に圧力を掛けることになる。越権行為だ」と述べた。

日本精神科病院協会の山崎学会長は看護職員の労働環境の現状に理解を示す一方、勤務医数が減少している実態を挙げ「『医師等の雇用の質の向上に関する省内 P T』なら、われわれは反対しない。なぜ(対象が)看護職員だけなのか」と疑問を投げ掛けた。（平成 22 年 12 月 28 日）

## ■術前の HIV 検査、保険適用を

— 日産婦、内保連通じ要望へ —

日本産科婦人科学会・医療改革委員会の海野信也委員長(北里大病院副院長)はメディファックスの取材に、院内感染防止を目的に手術前に行うエイズウイルス(HIV)検査を保険適用とするよう、内科系学会社会保険連合(内保連)を通じて厚生労働省保険局に要望していく考えを表明した。

手術前の感染症検査については、B 型肝炎や C 型肝炎、梅毒などの検査が保険適用となって

いるが、HIV検査は含まれていない。昨年秋には、複数の病院が院内感染対策を目的に術前にHIV検査を実施し患者負担を求めている実態が発覚し、患者への返還命令を受ける事例が出てきた。

海野委員長は「院内感染対策が目的というが、病院職員の感染防止だけでなく、職員が媒介となる患者への2次感染を防止し、病院という環境をより安全なものとするにつなげることを重視してもらいたい」と述べた。

北里大病院は手術前のスクリーニング検査としてのHIV検査は見送っていたが、観血的手術が年間7000件に及ぶことや、針刺し事故に対する職員の精神的ストレスを緩和し、他の患者への2次感染を防止するため、HIV感染の有無が分からない患者に対して今月中旬から病院負担でHIV検査を実施する方針を組織決定した。

手術前のHIV検査については、日本病院会の社会保険診療報酬委員会でも検討をスタートさせている。(平成23年1月18日)

## ■モデル事業を全国展開へ

### ― 日医の健康食品情報システム ―

日医は1月19日の定例会見で、副作用やアレルギー、医薬品との相互作用などの指摘がある健康食品について、地域医師会・会員への情報提供や国民・患者への啓発・広報活動を全国展開する「健康食品安全情報システム事業」を開始することを明らかにした。

日医は、2006年から17の都道府県医師会が協力するモデル事業として「食品安全に関する情報システム事業」を推進し、情報収集やセミナー・会報での啓発・周知活動を実施してきた。新事業は、日医雑誌などで全会員に情報提供票を配布して情報を収集する仕組みで、モデル事業の協力医師会だけでなく、全国の会員から健康食品による健康被害情報(疑いを含む)を集めることができる。収集した情報については、国民生活安全対策委員会の下に新たに設置する健康食品安全情報システム委員会が判定し、都道府県医

師会・会員への情報提供や国民への啓発、厚生労働省への通知に役立てる。(平成23年1月21日)

## ■行政に地域貢献度の説明を

### ― 公益法人化で今村常任理事 ―

都道府県医師会共同利用施設担当事務連絡協議会が1月19日、東京都内で開かれ、公益法人化に関して、函館市医師会の取り組みなどが紹介された。函館市医師会病院が「地域の診療所が共同で利用する開放型病院の運営」として公益目的事業として認められたことについて、今村聡常任理事は「地域貢献の度合いをきちんと行政側に説明することが大事」と述べた。

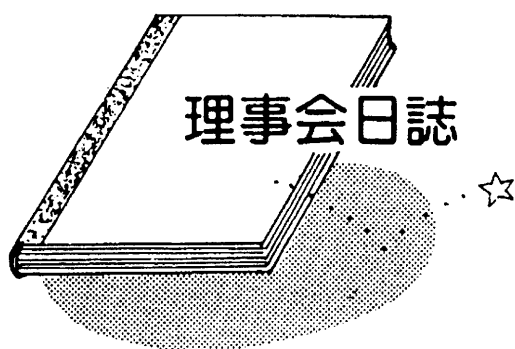
函館市医では日医のモデル事業として2009年夏ごろから、日医総研と連携しながら公益社団法人化に向け本格的に作業を開始。北海道側との交渉の結果、函館市医師会病院が、救急医療や2次輪番制に参画していることを説明した結果、公益目的事業として認められた。「健診検査センター」は一部部門が収益事業と当初判断されたが、検査結果をデータ化して会員の日常診療に反映させ、地域住民の健康管理に寄与していることが評価され、公益目的事業として認められたという。(平成23年1月21日)

## ■若手主体で政治活動研究会

### ― 日医連が初開催 ―

日本医師連盟(委員長＝原中勝征・日医会長)は1月15日、東京都内で政治活動研究会を開いた。古川貞二郎元官房副長官と足立信也参院議員・前厚生労働政務官が講演し、日本の社会保障制度の今後や政治団体としての活動の在り方について理解を深めた。同研究会は全国の都道府県医師会の政治連盟から若手を主体に参加を求め、初めて開催した。

原中委員長は挨拶で、政権の動きや医療を取り巻く今後の課題などに触れ、混合診療解禁の議論や医療ツーリズムの推進など、現在の政策は議論が十分にされないままに進められていると懸念を示した。(平成23年1月21日)



平成 22 年 12 月 7 日(火) 第 19 回常任理事会

医師会関係  
(議決事項)

1. 県民健康セミナー「宮崎の医療を考える(仮)」の開催について  
県民を対象に 1 月または 2 月に開催することが提案され承認された。講師及び演題については、関係機関等と調整を図り決定することとなった。
2. 宮崎日日新聞「新春号 1 /1 掲載」広告記事について  
学生等も帰省していることから医師確保の取組み等も踏まえ、例年同様の形式で本紙に掲載することが提案され承認された。
3. H 23.1 /2(土)(鹿児島)九州医師会連合会第 315 回常任委員会の提案事項について  
会長一任となり、医療保険対策協議会にも提出されている厚生局の指導関連について提案することが承認された。
4. H 23.3 /1(土)(指宿)九州ブロック日医代議員連絡会議において報告願う日医各種委員会について  
①有床診療所に関する検討委員会、②社会保険診療報酬検討委員会、③定款・諸規程改定検討委員会を希望することが承認された。

5. 白菊会への運営資金援助について  
会員に対する援助依頼で、例年同様、協力することが承認された。
6. 県医師会館の日曜日の会館貸与について  
職員の勤務状況等を勘案しながら諾否を判断することとなった。
7. 平成 23 年度妊婦及び乳児健康診査に係る委託単価再見積もりについて  
各市町村の財政状況等も踏まえ、全額公費と一部公費負担の 2 つの契約形式を再度提示することが提案され承認された。
8. H 23.2 /4(金)(愛媛)平成 22 年度第 2 回全国メディカルコントロール協議会連絡会の開催について  
古賀常任理事が出席することが承認された。

(報告事項)

1. 週間報告について
2. 11 月末日現在の会員数について
3. 12/3(金)(県総合保健センター)県健康づくり協会創立記念式典について
4. 12/6(月)(県庁)宮大医学部地域医療学講座運営・支援協議会について
5. 12/1(水)(日医)日医病院委員会について
6. 12/4(土)(県医)日医生涯教育協力講座セミナー「感染症の予防と治療」について
7. 12/5(日)(県医)県民健康セミナーについて
8. 12/7(火)(県医)治験審査委員会について
9. 12/2(木)(花ふく)広報委員会について
10. 12/3(金)(日医)女性医師等相談窓口事業推進連絡協議会について
11. その他  
①公益法人化準備委員会について



## 平成 22年 12月 14日(火) 第 13回全理事会

医師会関係  
(議決事項)

1. 次期国保審査委員会委員の推薦について  
    本会、郡市医師会、専門分科医会が推薦する案(委員任期：平成 23年 1月 1日～24年 12月 31日)が示され、原案どおり承認された。
2. 後援・共催名義等使用許可について  
    ①H 23.1 /23日(県総合保健センター)平成 22年小児救急市民公開講座の名義後援のご依頼について  
        →後援することが承認された。
3. H 23.4 /23日(県医師会館)の利用申請について  
    全国大会に伴う土曜日の会館貸与で承認することとなった。
4. H 23.1 /19日(日医)平成 22年度都道府県医師会共同利用施設担当理事連絡協議会について  
    出席者については事務局対応となり、郡市医師会にも照会することが承認された。
5. 県北部地域の初期救急医療に係る深夜帯診療体制整備へのご協力をお願い  
    延岡市の取り組みであり、働きかけについて承認することとなった。
6. 平成 23年度妊婦健診委託単価の変更について  
    (次回常任理事会で協議)
7. 第 24回宮崎県医師会医学賞の推薦について  
    先の県医師会医学賞選考委員会で選考された「ペグインターフェロン+リバビリン併用療法における早期HcVコア抗原推移による治療効果予測の検討」、「宮崎県における抗コリン剤の使用状況～本当に患者は満足しているのか～」の2題を医学賞とすることが承認された。
8. 地域医療再生臨時特例交付金の拡充に伴う

「地域医療再生計画」への事業提案について  
5郡市医師会から提出された6件の提案について確認が行われ、詳細については、日を改めて再検討することとなった。

## (報告事項)

1. 週間報告について
2. 12/8(水)(支払基金)支払基金幹事会について
3. 12/9(木)(石川亭)西都市・西児湯医師会忘年会について
4. 12/10(金)(県庁)県立病院事業評価委員会について
5. 12/11(土)(宮観ホテル)宮崎市郡医師会年末懇談会について
6. 12/9(木)(県医)全国有診総会実行委員会について
7. 12/9(木)(宮崎刑務所)刑務所視察委員会について
8. 12/12(日)(日医)日医医療事故防止研修会について
9. 11/19(金)(日医)都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会について
10. 11/20(土)(県医)県プライマリ・ケア研究会世話人会、総会・講演会について
11. 11/19(金)(県医)医学賞選考委員会について  
医師協同組合・エムエムエスシー関係

## (協議事項)

1. 組合員加入承認について

1名の新規加入が承認された。

## (報告事項)

1. 12/14(火)(宮観ホテル)医協運営委員会について

## 平成 22年 12月 21日(火) 第 20回常任理事会

医師会関係  
(議決事項)

1. 1 /13(木)(都城)社会保険医療担当者(医科)の



- 個別指導の実施について  
役員 1 名の立会いが承認された。
2. 1 /20(木)(JA A Z M)新規集団指導(医科)の実施について  
前回同様、新規集団指導の後、本会主催で説明会を開催することが承認された。
3. 会費減免申請について  
出産育児による会費減免 1 件が承認された。
4. 本会外の役員等の推薦について  
①宮崎県母子保健運営協議会委員の推薦及び就任について  
→引き続き、濱田常任理事、佐藤常任理事(県小児科医会長)、児玉由紀先生(県産婦人科医会)を推薦することが承認された。  
②「宮崎大学医学部附属病院ドクターヘリ運航準備委員会」委員の選出について  
→古賀常任理事を推薦することが承認された。
5. 1 /29(土)(鹿児島)九州医師会連合会第 2 回各種協議会における提案事項に対する回答について  
担当者を医療保険：河野副会長、介護保険：石川常任理事、地域医療：古賀常任理事にお願いし、担当及び出席役員を中心に回答を取りまとめ、開催県に回答を行うことが承認された。
6. 平成 23 年度九州医師会連合会及び各種関連行事予定(案)について  
日程の最終確認が行われ、今後、事務局を中心に九州各県医師会に情報提供を行っていくことが承認された。
7. 平成 23 年度妊婦健診委託単価の変更について  
厚労省の Q & A 発出により該当検査が見直されたため、市町村に対して改めて見積書を提出、要望を行うことが承認された。
8. 1 /2(木)(日医)第 32 回産業保健活動推進全国会議の開催について  
大塚常任理事が出席することが承認された。
9. 宮崎県国民保護共同訓練(図上)に係る 1 /11(火)(県庁)第 3 回調整会議及び 1 /12(木)(自治会館)国民保護訓練研修会について  
古賀常任理事が出席することが承認された。
10. 1・2 月の行事予定について  
1 月の追加行事と 2 月の行事について確認が行われた。
11. 1 /2(土)(鹿児島)九医連医療保険対策協議会に提出する次期診療報酬改定の要望事項について  
医療保険委員会の協議を受け、各郡市医師会、各専門分科医会から提出された意見を基に、要望の多い再診料の UP、他医療機関受診時の入院基本料減額の撤廃、有床診療所入院基本料の UP 等を中心に 10 項目をまとめ提出することが承認された。
12. 地域医療再生臨時特例交付金の拡充に伴う「地域医療再生計画」への事業提案について  
広域的な高度・専門医療や救命救急センター等の整備・拡充に加え、医療従事者の確保や教育等、将来を見据えた計画となるよう検討が行われ、今年中に県医師会としての計画を策定することが承認された。
- (報告事項)
1. 12/15(木)(ホテルメリージュ延岡)延岡市医師会忘年会について
2. 12/1(木)(ホテル中山荘)都城市北諸県郡医師会忘年会について
3. 12/17(金)(自治会館)県医療審議会について
4. 12/20(月)(県医)地域医療再生基金に関する打合せ会について

5. 12/21(火)(宮観ホテル)宮崎政経懇話会特別講演会について
6. 12/16(木)(県医)医療保険委員会について
7. 12/20(月)(県医)看護要員の算定に関する九州厚生局との意見交換会について
8. 12/16(木)(JA A Z M 本館)社会保険医療担当者(医科)の個別指導について
9. 12/12(日)(日医)日医医療事故防止研修会について
10. 12/16(木)(日医)都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会について
11. 12/13(月)(県医)県医師会生活習慣病検診従事者研修会について
12. 12/18(土)～19(日)(サンホテルフェニックス)指導医養成のためのワークショップについて
13. 12/16(木)(日医)日医ホームページ検討WGについて
14. 12/17(金)(県医)広報委員会について
15. その他  
①公益法人等準備委員会について

医師連盟関係  
(議決事項)

1. 1 /8(土)(宮観ホテル)県医連執行委員会について  
三師会新春懇談会に先立ち、県議会議員選挙への対応や医師連盟の活性化について検討を行うため、開催することが提案され承認された。
  2. 1 /8(土)(宮観ホテル)三師会新春懇談会について  
当日の出席者を踏まえ次第や進行の確認が行われた。
  3. H 23.1 /1(土)(東京)「日医連医政活動研究会」の参加者について  
該当者なしで回答していたが、再度依頼があったため、協議の結果、吉田常任執行委員と清山知憲先生を推薦することが承認された。
- (報告事項)
1. 県知事候補推薦のお願いについて
  2. 12/21(火)(JA A Z M 別館)河野しゅんじ選挙対策会議について

カット

# 

(1 月)

|    |                                                                                                                                |    |                                                                                                                        |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4  | 全体課長会(事務局)<br>新年賀詞交歓会(会長他)<br>仕事始め式(会長)<br>県健康づくり協会仕事始め式(会長)                                                                   | 19 | 全体課長会(事務局)                                                                                                             |
| 8  | かかりつけ医認知症対応力向上研修会<br>(石川常任理事)<br>県医連執行委員会(会長他)<br>三師会新春懇談会(会長他)                                                                | 20 | 日医広報委員会(日医)(荒木常任理事)<br>新規集団指導(医科)(会長他)                                                                                 |
| 11 | 県国民保護共同訓練(図上)に係る調整会議<br>(古賀常任理事)<br>治験審査委員会(富田副会長他)<br>第 2 回常任理事会(会長他)                                                         | 21 | 宮大経営協議会・学長選考会議(会長)                                                                                                     |
| 12 | 奥様医業経営塾(医協事務局)<br>支払基金幹事会(会長)                                                                                                  | 22 | かかりつけ医認知症対応力向上研修会<br>(吉田常任理事)<br>県産婦人科医会・県産科婦人科学会研修会・冬<br>期総会(濱田常任理事)<br>県アイバンクライオンズ協力会常任理事研修会<br>(事務局)<br>プライマリ・ケア研修会 |
| 13 | 社会保険医療担当者(医科)の個別指導(済陽理事)<br>宮崎市郡医師会新年例会(会長)<br>県産婦人科医会常任理事会(濱田常任理事)                                                            | 24 | 広報委員会(荒木常任理事他)                                                                                                         |
| 14 | 県外科医会全理事会                                                                                                                      | 25 | 医協運営委員会(会長他)<br>第 14 回全理事会(会長他)<br>各郡市医師会長協議会(会長他)<br>「こども医療圏」プロジェクトチームコアメンバ<br>ー会議                                    |
| 15 | 日医連医政活動研究会(東京)(吉田常任理事)<br>産業医研修会(大塚常任理事他)<br>各郡市医師会・医師国保組合各支部等職員事務<br>研修会(会長)                                                  | 26 | 奥様医業経営塾(医協事務局)<br>産業医研修会<br>労災診療指導委員会(河野副会長他)                                                                          |
| 16 | 全医協連広報部会(東京)(立元常任理事)                                                                                                           | 27 | 産業保健活動推進全国会議(日医)(大塚常任理事)<br>社会保険医療担当者(医科)の新規個別指導<br>(上田理事)<br>社会保険医療担当者(医科)の個別指導(上田理事)<br>九州地方社会保険医療協議会宮崎部会<br>(河野副会長) |
| 17 | 地域産業保健センターコーディネーター会議<br>(事務局)<br>病院部会・医療法人部会合同理事会<br>(大塚常任理事)<br>県内科医会学術委員会<br>広報委員会(富田副会長他)                                   | 28 | 日医地域医療対策委員会(日医)(富田副会長)<br>全医連臨時代表者会(日医)(秦理事長)                                                                          |
| 18 | 産業医研修会<br>都道府県医師会長協議会(日医)(会長)<br>九州ブロック初期・後期臨床研修に関する委員<br>会実行委員会(福岡)(古賀常任理事)<br>日医役員・都道府県医師会長新年会(日医)(会長)<br>第 2 回常任理事会(河野副会長他) | 29 | 九医連医療保険対策協議会(鹿児島)<br>(河野副会長他)<br>九医連常任委員会(鹿児島)(会長)<br>九医連各種協議会(鹿児島)(河野副会長他)                                            |
|    |                                                                                                                                | 31 | 県内科医会誌編集委員会<br>公益法人化検討委員会(会長他)<br>勤務医部会理事会(上田理事他)                                                                      |

## お知らせ

平成 22 年度日本医師会認定医療秘書養成制度  
卒業生求職のお願い！

宮崎県医師会では 18 年度より、日本医師会認定医療秘書の養成を下記 3 教育機関に委託しており、23 年 3 月に 4 回目の卒業生が誕生いたします。全日制の 2 年課程で医学基礎教科・秘書専門教科として看護師養成課程に近いレベルの教育をされており、専門的な医療事務に必要な知識、最新の情報処理技能などの資格を備えるとともに、「誠実さ」「思いやり」など、医療機関の今日的な使命を自覚し、それにふさわしい対応ができる人間形成にも力を入れています。

是非、日医認定医療秘書の学生の方々を貴医療機関にご採用いただきますようご案内いたします。

求職希望、またお問い合わせ等につきましては、直接下記の加盟養成校担当者へご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。

| 宮崎学園短期大学<br>(宮崎市)                                          | 宮崎医療管理専門学校<br>(宮崎市)                               | 都城コアカレッジ<br>(都城市)                                                 |
|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 就職希望者 16 名<br>(女 16 名)                                     | 就職希望者 17 名<br>(男 2 名、女 15 名)                      | 就職希望者 14 名<br>(男 2 名、女 12 名)                                      |
| 連絡先：TEL 0985-85-0146<br>宮崎市清武町加納 1415<br>担当：佐土原 敦<br>谷口 和子 | 連絡先：TEL 0985-86-2271<br>宮崎市田野町甲 1556-1<br>担当：福元 進 | 連絡先：TEL 0986-38-4811<br>都城市吉尾町 77-8<br>担当：谷上 智子<br>中山さおり<br>原口桂一郎 |

## ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

平成 23年 1月 15日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。

お申込み、お問い合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しております。ご覧ください。

### 1. 求職者登録数 6人

#### 1) 男性医師求職登録数 5人 (人)

| 希 望 診 療 科 目 | 求 職 数 | 常 勤 ・ 非 常 勤 別 |
|-------------|-------|---------------|
| 内 科         | 3     | 常勤, 非常勤       |
| 老 健 施 設     | 1     | 常勤            |
| 麻 酔 科       | 1     | 常勤            |

#### 2) 女性医師求職登録数 1人 (人)

| 希 望 診 療 科 目 | 求 職 数 | 常 勤 ・ 非 常 勤 別 |
|-------------|-------|---------------|
| 老 健 施 設     | 1     | 非常勤           |

### 2. 斡旋成立件数 32人

#### 1) 男性医師 23人 2) 女性医師 9人

### 3. 求人登録 68件 254人 (人)

| 募 集 診 療 科 目 | 求 人 数 | 常 勤 ・ 非 常 勤 別   |
|-------------|-------|-----------------|
| 内 科         | 76    | 常勤(55), 非常勤(21) |
| 循 環 器 科     | 11    | 常勤(11)          |
| 呼 吸 器 科     | 5     | 常勤(5)           |
| 外 科         | 23    | 常勤(20), 非常勤(3)  |
| 整 形 外 科     | 20    | 常勤(16), 非常勤(4)  |
| 産 婦 人 科     | 2     | 常勤(2)           |
| 眼 科         | 7     | 常勤(6), 非常勤(1)   |
| 耳 鼻 咽 喉 科   | 1     | 常勤(1)           |
| 泌 尿 器 科     | 2     | 常勤(2)           |
| 皮 膚 科       | 1     | 常勤(1)           |
| 放 射 線 科     | 8     | 常勤(7), 非常勤(1)   |
| リハビリテーション科  | 3     | 常勤(1), 非常勤(2)   |
| 脳 神 経 外 科   | 12    | 常勤(8), 非常勤(4)   |
| 神 経 内 科     | 3     | 常勤(3)           |
| 精 神 科       | 15    | 常勤(13), 非常勤(2)  |
| 麻 酔 科       | 10    | 常勤(6), 非常勤(4)   |
| 小 児 科       | 6     | 常勤(5), 非常勤(1)   |
| 血 液 内 科     | 3     | 常勤(3)           |
| 人 工 透 析     | 2     | 常勤(2)           |
| 健 診         | 2     | 常勤(2)           |
| 検 診         | 2     | 非常勤(2)          |
| 消 化 器 内 科   | 12    | 常勤(12)          |
| 救 命 救 急 科   | 3     | 常勤(3)           |
| そ の 他       | 25    | 常勤(25)          |



## 求 人 登 録 者 (公 開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、  
無料職業紹介所(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

| 登録番号   | 施 設 名               | 所 在 地 | 募 集 診 療 科                  | 求人数 | 勤 務 形 態 |
|--------|---------------------|-------|----------------------------|-----|---------|
| 150005 | 医)りっか会ピア・メンタル ささき病院 | 宮 崎 市 | 精                          | 1   | 非常勤     |
| 160011 | 赤十字血液センター           | 宮 崎 市 | 検診                         | 2   | 非常勤     |
| 160013 | 医)三晴会 金丸脳神経外科病院     | 宮 崎 市 | 脳, 整, 放, 麻, 内              | 8   | 常勤・非常勤  |
| 160020 | 財)弘潤会 野崎病院          | 宮 崎 市 | 精, 内                       | 2   | 常勤      |
| 160031 | 医)同心会 古賀総合病院        | 宮 崎 市 | 呼, 神内, 眼, 耳, 総診, 呼外, 循, 臨病 | 9   | 常勤      |
| 170040 | 医)いなほ会 日高医院         | 宮 崎 市 | 内                          | 1   | 常勤      |
| 170046 | 医)社団善仁会 市民の森病院      | 宮 崎 市 | 内, 消内, 内分泌内, 呼, 放, リウマチ    | 10  | 常勤・非常勤  |
| 170048 | 医)慶明会 けいめい記念病院      | 国 富 町 | 内, 眼                       | 2   | 常勤      |
| 170052 | 医)春光会               | 宮 崎 市 | 外, 内                       | 3   | 常勤      |
| 180082 | 国立病院機構宮崎東病院         | 宮 崎 市 | 内, 神内, 整                   | 5   | 常勤      |
| 190087 | 宮崎市郡医師会病院           | 宮 崎 市 | 消内                         | 3   | 常勤      |
| 190089 | 医)社団孝尋会 上田脳神経外科     | 宮 崎 市 | 脳, 内, 麻                    | 4   | 常勤・非常勤  |
| 190094 | 医)耕和会 迫田病院          | 宮 崎 市 | 整, 内                       | 3   | 常勤      |
| 190096 | 医)晴緑会 宮崎医療センター病院    | 宮 崎 市 | 消化, 外, 総内, 麻, 放, 精, 整, 循   | 13  | 常勤・非常勤  |
| 200103 | 社)八日会 藤元中央病院健診センター  | 宮 崎 市 | 健診                         | 1   | 常勤      |
| 200104 | 医)社団善仁会 宮崎善仁会病院     | 宮 崎 市 | 内, 外, 救急, 化療, リハ           | 6   | 常勤      |
| 200105 | 医)誠友会 南部病院          | 宮 崎 市 | 内, 外, 放                    | 3   | 常勤      |
| 210110 | 医)幸秀会 大江整形外科病院      | 宮 崎 市 | 整                          | 1   | 常勤      |
| 210118 | 慈英病院                | 宮 崎 市 | 内, リハ                      | 5   | 常勤・非常勤  |
| 220121 | 医)社団 星井眼科医院         | 宮 崎 市 | 眼                          | 1   | 常勤      |
| 220125 | 医)仁和会 竹内病院          | 宮 崎 市 | 外                          | 1   | 常勤      |
| 160008 | 医)正立会 黒松病院          | 都 城 市 | 内, 泌                       | 2   | 常勤      |
| 160010 | 特医)敬和会 戸嶋病院         | 都 城 市 | 内, 老内                      | 2   | 常勤      |
| 160018 | 医)宏仁会 メディカルシティ東部病院  | 都 城 市 | 内, 総診, 救急, 整, 脳, 外         | 6   | 常勤      |
| 170057 | 医)清陵会 隅病院           | 都 城 市 | 内, 外, 整                    | 3   | 常勤      |
| 180064 | 国立病院機構都城病院          | 都 城 市 | 消内, 血内, 循, 呼, 内, 脳, 産婦,    | 9   | 常勤      |
| 180069 | 社)八日会 大悟病院          | 三 股 町 | 精, 内                       | 2   | 常勤      |
| 180081 | 医)恵心会 永田病院          | 都 城 市 | 精                          | 1   | 常勤      |
| 190092 | 都城市郡医師会病院           | 都 城 市 | 内, 呼                       | 4   | 常勤      |

| 登録番号   | 施 設 名              | 所 在 地 | 募 集 診 療 科                    | 求人数 | 勤 務 形 態 |
|--------|--------------------|-------|------------------------------|-----|---------|
| 190093 | 社)八日会 藤元早鈴病院検診センター | 都 城 市 | 内                            | 2   | 常勤・非常勤  |
| 200106 | 医)宏仁会 海老原内科        | 都 城 市 | 内, 外                         | 4   | 常勤・非常勤  |
| 210108 | 特医)敬和会 みまた病院       | 三 股 町 | 内, 消内, 循, 皮, 整, 婦, 小, 呼, 放   | 10  | 常勤      |
| 210113 | 医)邦楽会 河村医院         | 都 城 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 210114 | 社)八日会 藤元病院         | 都 城 市 | 精                            | 2   | 常勤      |
| 160034 | 特医)健寿会 黒木病院        | 延 岡 市 | 外, 消内, 緩ケア                   | 4   | 常勤      |
| 160036 | 医)久康会 平田東九州病院      | 延 岡 市 | 内, 脳, 循, 小, リハ, 眼, 婦, 神内, 老施 | 9   | 常勤      |
| 190086 | 早田病院               | 延 岡 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 200100 | 医)育生会 井上病院         | 延 岡 市 | 産婦, 内                        | 2   | 常勤      |
| 200102 | 延岡市医師会病院           | 延 岡 市 | 消内                           | 3   | 常勤      |
| 210109 | 延岡市夜間急病センター        | 延 岡 市 | 内, 小, 外, 整                   | 8   | 常勤・非常勤  |
| 210112 | 医)嘉祥会 岡村病院         | 延 岡 市 | 内                            | 3   | 常勤・非常勤  |
| 160028 | 日向市立東郷病院           | 日 向 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 160039 | 医)誠和会 和田病院         | 日 向 市 | 外, 内, 整, 透                   | 7   | 常勤      |
| 210111 | 宮崎県済生会 日向病院        | 門 川 町 | 内, 麻                         | 4   | 常勤      |
| 160006 | 都農町国保病院            | 都 農 町 | 内, 放, 外, 小                   | 4   | 常勤      |
| 160023 | 医)宏仁会 海老原総合病院      | 高 鍋 町 | 整, 内, 麻, 眼, 健診               | 5   | 常勤      |
| 170058 | 国立病院機構宮崎病院         | 川 南 町 | 呼, 循, 消内, 外                  | 8   | 常勤      |
| 180077 | 医)聖山会 川南病院         | 川 南 町 | 眼, 麻, 脳                      | 10  | 常勤・非常勤  |
| 160024 | 医)隆徳会 鶴田病院         | 西 都 市 | 内, 外, 整                      | 6   | 常勤・非常勤  |
| 150002 | 医)慶明会 おび中央病院       | 日 南 市 | 内                            | 1   | 常勤      |
| 150003 | 医)同仁会 谷口病院         | 日 南 市 | 精                            | 2   | 常勤      |
| 160022 | 医)愛鍼会 山元病院         | 日 南 市 | 内, 消内, 神内                    | 3   | 常勤      |
| 160037 | 医)十善会 県南病院         | 串 間 市 | 精, 内                         | 6   | 常勤・非常勤  |
| 170047 | 日南市立中部病院           | 日 南 市 | 内, 神内, 整, 外                  | 4   | 常勤      |
| 180071 | 串間市民病院             | 串 間 市 | 腎内                           | 1   | 常勤      |
| 220124 | 医)月陽会 きよひで内科クリニック  | 日 南 市 | 内                            | 4   | 常勤・非常勤  |
| 160019 | 医)相愛会 桑原記念病院       | 小 林 市 | 内                            | 2   | 常勤・非常勤  |
| 170043 | 医)和芳会 小林中央眼科       | 小 林 市 | 眼                            | 1   | 常勤      |
| 180067 | 小林市立病院             | 小 林 市 | 内, 循, 呼, 血内, 健診, 放, 小        | 11  | 常勤      |
| 180076 | 医)友愛会 園田病院         | 小 林 市 | 外, 内, 整                      | 4   | 常勤      |
| 190090 | 特医)浩然会 内村病院        | 小 林 市 | 精                            | 2   | 常勤      |
| 190091 | 医)友愛会 野尻中央病院       | 小 林 市 | 整, 内                         | 4   | 常勤・非常勤  |
| 170049 | 五ヶ瀬町国保病院           | 五ヶ瀬町  | 整                            | 1   | 常勤      |
| 180070 | 高千穂町国保病院           | 高千穂町  | 内, 泌, 透                      | 3   | 常勤      |
| 190088 | 日之影町国保病院           | 日之影町  | 内, 整                         | 2   | 非常勤     |

## 病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡、賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成 23 年 1 月 15 日現在

|         |                                                                                                                                                           |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 譲渡物件 | <p>① 宮崎市大字瓜生野 1645-3 (矢野整形外科跡)</p> <p>土地：562.6坪：1,859.89㎡</p> <p>建物：鉄筋コンクリート造り 3 階建(面積 1,047.89㎡：316.98坪)</p>                                             |
|         | <p>② 宮崎市本郷南方 5465-6 (診療所跡)</p> <p>土地：1704.26㎡(516.4坪)</p> <p>建物：重量鉄骨造 2 階建(平成 3 年築)</p> <p>1 階 420.53㎡(127.4坪), 2 階 340.79㎡(103.3坪)</p> <p>※駐車場：25 台分</p> |
| 2. 賃貸物件 | <p>① 日南市園田 2 -2 -5 (診療所跡)</p> <p>建物：鉄骨コンクリート造 2 階建</p> <p>1 階 147.17㎡, 2 階 54.66㎡</p> <p>◎日南市油津で町の中心部です。</p>                                              |
|         | <p>② 宮崎市曾師町 209-3 (診療所跡)</p> <p>建物：鉄筋コンクリート造 2 階建</p> <p>1 階 183.35㎡, 2 階 166.69㎡</p> <p>※駐車場：10 台分</p>                                                   |
|         | <p>③ 日向市上町 9 番 3 号(医心内科跡)</p> <p>建物：鉄筋コンクリート造 2 階建</p> <p>延床面積：312.08㎡</p> <p>※駐車場：20 台駐車可</p> <p>◎日向駅近くに位置し、バス、電車の便も良好です。</p>                            |

お問合せ先

### ドクターバンク無料職業紹介所

〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10 番地(宮崎県医師協同組合)

TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179 E-mail: isikyou@m iyazakim ed.or.jp

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成 23年 2 月 1 日現在

| 2  |   | 月                                                                                                            |                                                                                                                                                                             |
|----|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 火 | 14: 00 県高齢者サービス総合調整推進会議・<br>県介護予防市町村支援委員会<br>16: 00 県慢性腎臓病対策推進会議<br>19: 00 第 23回常任理事会                        | 15 火 13: 30 県 8020運動推進協議会<br>15: 00 県メディカルコントロール協議会<br>19: 00 第 25回常任理事会                                                                                                    |
| 2  | 水 | 13: 00 (日医)医療政策シンポジウム<br>14: 00 産業医研修会<br>15: 00 県総合計画審議会・専門部会合同会議<br>17: 00 (日医)日医病院委員会<br>19: 00 医家芸術展世話人会 | 16 水 9: 10 全体課長会(事務局)<br>19: 30 県産婦人科医会がん検診対策委員会<br>17 木 15: 00 (日医)日医ホームページ検討WG<br>19: 00 医師国保理事会                                                                          |
| 3  | 木 | 15: 00 県認知症高齢者グループホーム連絡<br>協議会理事会<br>19: 00 県有床診療所協議会役員会<br>19: 00 精度管理調査実行委員会(事務局)                          | 18 金 14: 30 九医連事務局長連絡協議会(事務局)<br>19: 00 医療安全対策セミナー<br>19 土 15: 30 九州地区医師国保組合連合会<br>全体協議会<br>16: 00 勤務医部会後期講演会                                                               |
| 4  | 金 | 13: 45 全国メディカルコントロール協議会<br>連絡会<br>18: 30 南那珂医師会定時総会<br>18: 30 産業医研修会<br>19: 00 自賠責保険研修会にかかる事前打合会             | 20 日 8: 50 県医緩和ケアチーム研修会<br>10: 00 (日医)日医母子保健講習会<br>13: 00 県医師会IT研修(初級パソコン教室)                                                                                                |
| 5  | 土 | 14: 00 かかりつけ医認知症対応力向上研修会<br>14: 00 女性医師等情報交換会<br>15: 00 県外科医会冬期講演会                                           | 21 月 19: 00 広報委員会<br>19: 00 県内科医会理事会<br>19: 00 介護保険主治医研修会<br>19: 00 公益法人化検討委員会                                                                                              |
| 6  | 日 | 14: 30 日医連執行委員会                                                                                              | 22 火 18: 15 医協運営委員会<br>19: 00 第 15回全理事会                                                                                                                                     |
| 7  | 月 | 19: 00 生活習慣病検診特定健康診査等従事<br>者研修会<br>19: 30 県産婦人科医会学術委員会                                                       | 23 水 10: 30 奥様医業経営塾(医協事務局)<br>15: 00 労災診療指導委員会                                                                                                                              |
| 8  | 火 | 16: 00 支払基金幹事会<br>18: 00 治験審査委員会<br>19: 00 第 24回常任理事会                                                        | 24 木 13: 30 (日医)シンポジウム「会員の倫理・<br>資質向上をめざしてー患者の苦情情<br>報に基づく倫理問題の検討ー」<br>18: 00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会<br>19: 00 産業医制度関係小委員会                                                       |
| 9  | 水 | 10: 30 奥様医業経営塾(医協事務局)<br>13: 30 子どもの健康を守る地域専門家総合<br>連携事業連絡協議会                                                | 25 金 13: 30 地域産業保健センターコーディネ<br>ーター会議(事務局)<br>14: 30 (日医)都道府県医師会事務局長連絡<br>会(事務局)<br>15: 00 (日医)日医医療秘書認定試験委員会<br>19: 00 創立 122周年記念医学会                                         |
| 10 | 木 | 10: 00 社会保険医療担当者(医科)の個別<br>指導<br>19: 30 県産婦人科医会常任理事会                                                         | 26 土 13: 30 全国医療法人経営セミナー実行委員会<br>14: 00 女性医師支援センター事業九州ブロッ<br>ク会議<br>15: 00 県医スポーツ医学セミナー<br>15: 00 病院部会・医療法人部会合同医療従<br>事者研修会<br>15: 00 地域リハビリテーション研修会<br>15: 40 県内医師会病院連絡協議会 |
| 11 | 金 | (建国記念の日)<br>14: 00 県民健康セミナー                                                                                  | 27 日 13: 00 (日医)予防接種講習会<br>15: 00 県民健康セミナー                                                                                                                                  |
| 12 | 土 | 14: 00 (日医)日医医療情報システム協議会<br>14: 30 自賠責保険研修会<br>15: 00 県介護支援専門員連絡協議会研修会                                       | 28 月 11: 00 県国保連合会理事会及び通常総会<br>19: 00 県内科医会評議員会                                                                                                                             |
| 13 | 日 | 9: 00 (日医)日医医療情報システム協議会<br>10: 00 日本プライマリ・ケア連合学会九州<br>支部総会・講習会<br>13: 00 日医医療秘書認定試験                          |                                                                                                                                                                             |
| 14 | 月 | 10: 30 県保険者協議会(事務局)<br>19: 15 広報委員会                                                                          |                                                                                                                                                                             |

※都合により、変更になることがあります。

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成 23 年 2 月 1 日現在

| 3  |   |                                                                                                                           | 月  |   |                                                                                           |
|----|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 火 | 19:00 第 26 回常任理事会                                                                                                         | 16 | 水 | 9:10 全体課長会（事務局）<br>18:30 産業医研修会                                                           |
| 2  | 水 |                                                                                                                           |    |   |                                                                                           |
| 3  | 木 | 14:00（日医）日医地域医療対策委員会<br>16:00 全国国保組合協会九州支部総会                                                                              | 17 | 木 | 12:00（日医）日医広報委員会<br>13:30 県腎臓バンク理事会<br>14:00（日医）都道府県医師会広報担当理事<br>連絡協議会<br>19:00 県外科医会全理事会 |
| 4  | 金 | 13:00 全国国保組合協会通常総会                                                                                                        |    |   |                                                                                           |
| 5  | 土 | 11:30 県認知症高齢者GH 連絡協議会理事会<br>13:30 県認知症高齢者GH 連絡協議会総会研<br>修会<br>14:00 自殺対策うつ病研修会<br>15:25 県産婦人科病医院従事者研修会<br>17:30 各郡市内科医会長会 | 18 | 金 | 14:00 産業医研修会                                                                              |
|    |   |                                                                                                                           | 19 | 土 |                                                                                           |
|    |   |                                                                                                                           | 20 | 日 | （春分の日）                                                                                    |
| 6  | 日 | 9:00 県産婦人科病医院従事者研修会                                                                                                       | 21 | 月 |                                                                                           |
| 7  | 月 | 19:00 医学会誌編集委員会                                                                                                           | 22 | 火 | 18:00 第 16 回全理事会<br>18:50 県医連執行委員会<br>19:20 県医定例代議員会                                      |
| 8  | 火 | 18:00 治験審査委員会<br>19:00 第 27 回常任理事会                                                                                        | 23 | 水 | 10:30 奥様医業経営塾（医協事務局）                                                                      |
| 9  | 水 | 10:30 奥様医業経営塾（医協事務局）<br>14:00 産業医研修会<br>16:00 支払基金幹事会                                                                     | 24 | 木 |                                                                                           |
| 10 | 木 |                                                                                                                           | 25 | 金 | 19:00 広報委員会                                                                               |
| 11 | 金 | 14:00 県たばこ対策検討会<br>19:00 医師国保通常組合会                                                                                        | 26 | 土 | 全医秘協常任委員会・運営委員会<br>14:00 臨床検査精度管理調査勉強会（事務局）                                               |
| 12 | 土 | 九医連常任委員会<br>九州ブロック日医代議員連絡協議会<br>16:00 県内科医会総会並びに会員発表会・<br>特別講演会                                                           | 27 | 日 | 9:30（日医）日医定例代議員会<br>15:30（日医）日医定例総会<br>19:15 清山知憲候補総決起集会                                  |
|    |   |                                                                                                                           | 28 | 月 |                                                                                           |
| 13 | 日 | 10:00 医師国保組合歩こう会<br>14:30 県小児科医会総会・学術研究会                                                                                  | 29 | 火 | 18:00 九州地方社会保険医療協議会宮崎<br>部会<br>19:00 第 29 回常任理事会                                          |
| 14 | 月 | 19:15 広報委員会                                                                                                               |    |   |                                                                                           |
| 15 | 火 | 18:15 医協運営委員会<br>19:00 第 28 回常任理事会                                                                                        | 30 | 水 | 15:00 労災診療指導委員会                                                                           |
|    |   |                                                                                                                           | 31 | 木 |                                                                                           |

※都合により、変更になることがあります。



# 医 学 会 ・ 講 演 会

## 日本医師会生涯教育講座認定学会

注：数字は日本医師会生涯教育制度認定単位・カリキュラムコード（cc）。当日，参加証を交付。  
 がん検診；各種がん検診登録・指定・更新による研修会。波線；専門研修会以外の産業医研修会。  
アンダーラインの部分は，変更になったところです。

| 名 称                                                                  | 日時・場所・会費                                   | 演 題                                                                                               | そ の 他<br>※＝連絡先                                                            |
|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 宮崎県医師会産業<br>医研修会(生涯研修<br>の専門研修会2単<br>位)<br>(2単位)<br>(cc：11,12,69,70) | 2月2日(水)<br>14：00～16：00<br>宮崎産業保健推進<br>センター | (4)メンタルヘルス対策<br>職場のメンタルヘルス対応レシピ<br>PART 2<br>宮崎若久病院長 倉山 茂樹                                        | ◇共催<br>宮崎産業保健推進センター<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                          |
| がん治療カンファ<br>レンス特別講演会<br>(1.5単位)<br>(cc：10,24,81)                     | 2月2日(水)<br>18：00～20：00<br>県立日南病院           | 一般病棟での緩和ケアについて<br>国立病院機構四国がんセンター<br>副看護師長 田所 かおり<br>標準的リンパ浮腫治療と最近のトピックス<br>同センター総括診療部外来部長<br>河村 進 | ◇共催<br>※県立日南病院医療<br>連携科<br>☎ 0987-23-3111<br>ヤンセンファーマ(株)<br>◇後援<br>南那珂医師会 |
| 日向市東臼杵郡医<br>師会予防接種講演<br>会<br>(1単位)<br>(cc：11,12)                     | 2月2日(水)<br>19：00～20：00<br>日向JA会館           | 予防接種業務について<br>宮崎生協病院小児科 上野 満                                                                      | ◇主催<br>※日向市東臼杵郡医師会<br>☎ 0982-52-0222                                      |
| 宮崎市郡産婦人科<br>医会第43回症例検<br>討会<br>(1単位)<br>(cc：2,9)                     | 2月3日(木)<br>19：30～20：30<br>宮崎市郡医師会病院        | 各医院からの紹介例<br>宮崎大学医学部附属病院産婦人科<br>金子 政時                                                             | ◇主催<br>※宮崎市郡産婦人科医会<br>☎ 0985-53-3434                                      |

| 名 称                                                                       | 日時・場所・会費                                  | 演 題                                                                                           | そ の 他<br>※＝連絡先                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 宮崎県医師会産業<br>医研修会(生涯研修<br>の <u>実地研修会</u> 2単<br>位)<br>(2単位)<br>(cc:1,11,12) | 2月4日(金)<br>18:30～20:30<br>県医師会館           | (2)じん肺のエックス線検査<br>石綿関連疾患診断技術研修<br>富山労災病院アスベスト疾患<br>センター長 水橋 啓一<br>岡山大学病院放射線科助教<br>加藤 勝也       | ◇共催<br>宮崎産業保健推進センター<br>※宮崎県医師会<br>☎0985-22-5118                              |
| 西諸医師会・西諸<br>整形外科医会・西<br>諸内科医会合同学<br>術講演会<br>(2単位)<br>(cc:19,20,31,63)     | 2月4日(金)<br>18:30～21:00<br>ガーデンベルズ小林       | 頸椎変性疾患の治療<br>野崎東病院整形外科副院長<br>久保 紳一郎                                                           | ◇主催<br>※西諸医師会<br>☎0984-23-2113<br>西諸整形外科医会<br>◇共催<br>西諸内科医会<br>日本臓器製薬(株)     |
| 第9回宮崎大腸疾<br>患研究会<br>がん検診(大腸)<br>(1.5単位)<br>(cc:2,8,9)                     | 2月4日(金)<br>19:00～20:30<br>宮崎観光ホテル<br>500円 | 大腸癌集学的治療<br>三重大学消化管・小児外科学教授<br>楠 正人                                                           | ◇主催<br>宮崎大腸疾患研究会<br>◇共催<br>※味の素製薬(株)<br>☎092-735-4581                        |
| 都城市北諸県郡医<br>師会内科医会学術<br>講演会<br>(1.5単位)<br>(cc:9,73,74)                    | 2月4日(金)<br>19:00～20:30<br>ホテル中山荘          | 生活習慣病の視点から考えるCKD合併高<br>血圧治療の新たな潮流<br>ーT Ⅱ型Ca拮抗薬併用効果への期待ー<br>東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・<br>内分泌内科教授 東條 克能 | ◇主催<br>※都城市北諸県郡医<br>師会内科医会<br>☎0986-22-0711<br>◇共催<br>協和発酵キリン(株)             |
| 延岡医学会学術講<br>演会<br>(1単位)<br>(cc:45,79)                                     | 2月4日(金)<br>19:15～20:15<br>ホテルメリージュ<br>延岡  | 喘息治療に関する最近の話題<br>鹿児島大学呼吸器内科学教授<br>井上 博雅                                                       | ◇共催<br>延岡医学会<br>アステラス製薬(株)<br>※アストラゼネカ(株)<br>☎080-3100-5766<br>◇後援<br>延岡内科医会 |

| 名 称                                                                          | 日時・場所・会費                                                                           | 演 題                                                                                                                                                                     | そ の 他<br>※＝連絡先                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 平成 22年度かかり<br>つけ医認知症対応<br>力向上研修<br>(4 単位)<br>(cc : 2 ,5 ,13,<br>14,15,29)    | 2 月 5 日(土)<br>14: 00～ 18: 10<br>県医師会館                                              | 基礎編：家族が最初に気づいた認知症高<br>齢者の日常生活の変化<br>大悟病院 三山 吉夫<br>診断編：認知症初期の発見のポイント<br>宮崎大学医学部精神医学 林 要人<br>治療とケア編：早期発見, 早期治療の意義<br>ハートピア細見クリニック細見 潤<br>連携編：主治医意見書の役割<br>クリニックうしたに 牛谷 義秀 | ◇主催<br>宮崎県<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                                |
| 第 4回宮崎県スポー<br>ツ学会<br>(1 単位)<br>(cc : 57,61)                                  | 2 月 5 日(土)<br>15: 00～ 19: 00<br>JA A Z M ホール<br>1,000円                             | 下腿・足部のスポーツ傷害<br>ーその原因と予防対策ー<br>びわこ成蹊スポーツ大学教授<br>大久保 衛                                                                                                                   | ◇共催<br>宮崎県スポーツ学会<br>ファイザー(株)<br>(連絡先)<br>宮崎大学医学部整形外科<br>☎ 0985-85-0986 |
| 平成 22年度生活習<br>慣病検診従事者研<br>修会 特定健康診<br>査等従事者研修会<br>(1.5単位)<br>(cc : 2 ,13,76) | 2 月 7 日(月)<br>19: 00～ 20: 30<br>県医師会館(TV 会<br>議：都城・延岡・日<br>向・児湯・西都・南<br>那珂・西諸・西臼杵) | 糖尿病診療の新しい流れ<br>ーインクレチン時代を迎えてー<br>古賀総合病院長 栗林 忠信                                                                                                                          | ◇主催<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118<br>宮崎県                                |
| 第 55回江南医療連<br>携の会・症例検討<br>会<br>(1.5単位)<br>(cc : 57,84)                       | 2 月 10日(木)<br>19: 00～ 20: 30<br>社会保険宮崎江南<br>病院                                     | 脛骨近位端骨折に対する治療について<br>宮崎江南病院整形外科部長<br>村上 弘<br>2010年肺・乳腺症例について<br>同病院副院長・外科 白尾 一定<br>重症手の外傷における当科の治療方針に<br>ついて<br>同病院形成外科医長 川浪 和子                                         | ◇主催<br>江南医療連携の会<br>(連絡先)<br>社会保険宮崎江南病院<br>☎ 0985-51-7575               |
| 第 9 回宮崎消化器<br>癌治療研究会<br>がん検診(胃)<br>(1.5単位)<br>(cc : 9 ,84)                   | 2 月 10日(木)<br>19: 00～ 20: 30<br>宮崎観光ホテル<br>500円                                    | 胃癌に対する外科的治療の現状と根拠<br>京都府立医科大学消化器外科学教授<br>大辻 英吾                                                                                                                          | ◇共催<br>宮崎消化器癌治療研究会<br>※大鵬薬品工業(株)<br>☎ 0985-27-4527<br>◇後援<br>宮崎県医師会    |

| 名 称                                                                       | 日時・場所・会費                                                                                         | 演 題                                                                                                                   | そ の 他<br>※＝連絡先                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 14 回宮崎県眼科<br>医会講習会<br>(3 単位)<br>(cc : 36)                               | 2 月 12 日(土)<br>16: 30～ 19: 30<br>ホテルJALシティ<br>宮崎<br>3,000円<br>(開業医・勤務医)<br>2,000円<br>(公的医療機関勤務医) | コンタクトレンズ使用者の実態と眼障害<br>ーレンズケアを中心にー<br>山口大学医学部眼科学臨床教授・<br>ウエダ眼科院長 植田 喜一                                                 | ◇主催<br>※宮崎県眼科医会<br>☎ 0985-28-1015<br>◇共催<br>(株)オフテクス                                                  |
| 平成 22 年度宮崎県<br>肝炎対策事業都城<br>地区医療従事者向<br>け講座<br>(1.5 単位)<br>(cc : 2 ,9 ,15) | 2 月 15 日(火)<br>19: 00～ 20: 30<br>ホテル中山荘                                                          | ウイルス肝炎治療の最適化<br>ーC型肝炎についてー<br>藤元早鈴病院消化器内科部長<br>駒田 直人<br>ウイルス肝炎治療の最適化<br>ーB型肝炎についてー<br>宮崎大学医学部附属病院<br>肝疾患センター准教授 永田 賢治 | ◇共催<br>宮崎県肝疾患診療連<br>携拠点病院(宮崎大学<br>医学部附属病院)<br>※都城市北諸県医師会<br>☎ 0986-22-0711<br>M SD (株)<br>◇後援<br>宮崎県他 |
| 第 9 回宮崎心エコー<br>研究会<br>(1.5 単位)<br>(cc : 2 ,9 ,15)                         | 2 月 16 日(水)<br>18: 30～ 20: 00<br>宮崎市郡医師会病院                                                       | 変わり始めた心エコー<br>榊原記念病院循環器内科部長<br>渡邊 弘之                                                                                  | ◇共催<br>※宮崎市郡医師会病院<br>☎ 0985-24-9119<br>第一三共(株)                                                        |
| 第 25 回宮崎呼吸器<br>乳腺懇話会<br>がん検診(乳)<br>(1.5 単位)<br>(cc : 11,42,45)            | 2 月 18 日(金)<br>19: 00～ 21: 00<br>宮崎観光ホテル<br>500円                                                 | 乳癌を見落とさないために<br>ブレストピアなんば病院副院長<br>前田 資雄                                                                               | ◇共催<br>宮崎呼吸器乳腺懇話会<br>※協和発酵キリン(株)<br>☎ 0985-22-8801                                                    |
| 延岡医学会学術講<br>演会<br>(1 単位)<br>(cc : 13,29)                                  | 2 月 18 日(金)<br>19: 15～ 20: 30<br>ホテルメリージュ<br>延岡                                                  | 認知症の周辺症状に対する薬物療法の可<br>能性<br>宮崎大学医学部精神医学教授<br>石田 康                                                                     | ◇共催<br>延岡医学会<br>※(株)ソムラ<br>☎ 0985-28-9663<br>◇後援<br>延岡内科医会                                            |

| 名 称                                                                       | 日時・場所・会費                                                                           | 演 題                                                                                                     | そ の 他<br>※＝連絡先                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 平成 22年度宮崎県<br>医師会勤務医部会<br>講演会<br>(2 単位)<br>(cc : 1 ,9 ,13,57)             | 2 月 19日(土)<br>16: 00～ 18: 00<br>宮崎観光ホテル                                            | 口腔外科の最新治療<br>宮崎大学医学部長・<br>顎顔面口腔外科学教授 迫田 隅男<br>A ｾﾝﾀｰが地域医療を救う。<br>医師・作家 海堂 尊                             | ◇主催<br>※宮崎県医師会勤務<br>医部会<br>☎ 0985-22-5118                              |
| 宮崎県医師会緩和<br>ケアチーム研修会<br>(5 単位)<br>(cc : 2 ,5 ,10,<br>13,15,49,80,81)      | 2 月 20日(日)<br>9 : 30～ 16: 00<br>県医師会館                                              | テーマ：緩和ケアにおけるリハビリテー<br>ション<br>ー在宅と病院との円滑な連携のもとに、よ<br>り質の高い在宅緩和ケアを目指してー                                   | ◇主催<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                                       |
| 平成 22年度介護保<br>険に関する「主治医<br>研修会」<br>(3 単位)<br>(cc : 2 ,29,32,<br>34,62,78) | 2 月 21日(月)<br>19: 00～ 22: 00<br>県医師会館(TV 会<br>議：都城・延岡・日<br>向・児湯・西都・南<br>那珂・西諸・西臼杵) | 認知症について<br>けいめい記念病院副院長<br>岡原 一徳<br>脳卒中について<br>おかどめ内科・外科院長<br>岡留 敏秀<br>整形外科領域の疾患について<br>三財病院整形外科部長 松本 英裕 | ◇主催<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118<br>宮崎県                                |
| 西都市西児湯内科<br>医会学術講演会<br>(2 単位)<br>(cc : 61,73)                             | 2 月 23日(水)<br>19: 00～ 21: 00<br>ホテルプリムローズ                                          | 関節リウマチの最新治療ー整形外科医の<br>立場からー<br>潤和会記念病院整形外科リウマチ科<br>部長 甲斐 睦章                                             | ◇主催<br>西都市西児湯内科医会<br>◇共催<br>※西都市西児湯医師会<br>☎ 0983-43-1687               |
| 第 2 回都城臨床画<br>像研究会<br>(1 単位)<br>(cc : 29)                                 | 2 月 24日(木)<br>19: 00～ 20: 30<br>都城ロイヤルホテル                                          | 認知症診断におけるPET 検査<br>藤元早鈴病院放射線科 藤田 晴吾                                                                     | ◇共催<br>都城臨床画像研究会<br>都城市北諸県郡医師<br>会放射線科医会<br>※エーザイ(株)<br>☎ 0985-26-2676 |



| 名 称                                                         | 日時・場所・会費                                                | 演 題                                                                                                                                                                                                        | そ の 他<br>※＝連絡先                                                                  |
|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 宮崎市郡小児科医<br>会学術集会<br>(1 単位)<br>(cc : 11,46)                 | 2 月 24 日(木)<br>19: 15～ 20: 30<br>宮崎観光ホテル                | 小児呼吸器感染症と抗菌薬適正使用<br>ー百日咳を含めてー<br>富士重工業健康保険組合<br>総合太田病院副院長・小児科部長<br>佐藤 吉壮                                                                                                                                   | ◇共催<br>※宮崎市郡小児科医会<br>☎ 0985-53-3434<br>アボット・ジャパン(株)                             |
| 第 8 回宮崎GERD<br>研究会<br>がん検診(胃)<br>(1.5 単位)<br>(cc : 1 ,8 ,9) | 2 月 25 日(金)<br>19: 00～ 21: 00<br>M R T m i c c<br>500 円 | 食道腫瘍の内視鏡治療<br>慶應義塾大学医学部腫瘍センター<br>低侵襲療法研究部門教授<br>矢作 直久                                                                                                                                                      | ◇共催<br>宮崎 GERD 研究会<br>※アストラゼネカ(株)<br>☎ 092-283-8150<br>◇後援<br>宮崎県医師会<br>宮崎県内科医会 |
| 宮崎県医師会創立<br>12 周年記念医学会<br>(1.5 単位)<br>(cc : 27,65,73)       | 2 月 25 日(金)<br>19: 00～ 21: 00<br>県医師会館                  | ペグインターフェロン +I バビリン併用療<br>法における早期HCVコア抗原推移による<br>治療効果予測の検討<br>宮崎大学医学部内科学講座<br>消化器血液学医員 土持 舞衣<br>宮崎県における抗コリン剤の使用状況<br>ー本当に患者は満足しているのかー<br>同大学医学部泌尿器科講師<br>井上 勝己<br>伊東マンショの生きた時代とその生涯<br>同大学教育文化学部教授<br>竹井 成美 | ◇主催<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                                                |
| 延岡医学会学術講<br>演会<br>がん検診(大腸)<br>(1 単位)<br>(cc : 10,21)        | 2 月 25 日(金)<br>19: 00～ 20: 00<br>ホテルメリージュ<br>延岡         | 進行・再発大腸癌に対するXELOX療法<br>久留米大学医学部附属医療センター<br>外科教授 緒方 裕                                                                                                                                                       | ◇共催<br>延岡医学会<br>※中外製薬(株)<br>☎ 0985-20-8118<br>◇後援<br>延岡内科医会                     |
| 第 4 回宮崎肝胆脾<br>フォーラム<br>(1 単位)<br>(cc : 2 ,15)               | 2 月 25 日(金)<br>19: 00～ 20: 00<br>宮崎観光ホテル<br>500 円       | 肝臓外科とADAMTS13<br>奈良県立医科大学消化器・<br>総合外科学教授 中島 祥介                                                                                                                                                             | ◇共催<br>宮崎肝胆脾フォーラム<br>※鳥居薬品(株)<br>☎ 0985-29-2286                                 |

| 名 称                                                                         | 日時・場所・会費                                                  | 演 題                                                                                                                                                                          | そ の 他<br>※＝連絡先                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 第 26回宮崎県リウマチ研究会, 第 19回宮崎リウマチのケア研究会<br>(1 単位)<br>(cc : 61)                   | 2 月 26日(土)<br>15: 00～ 17: 30<br>ホテルJALシティ<br>宮崎<br>1,000円 | ロコモ時代の関節リウマチのリハビリテーション<br>神戸学院大学総合リハビリテーション学部長・三木山陽病院副院長<br>西林 保朗                                                                                                            | ◇共催<br>宮崎県リウマチ研究会<br>宮崎リウマチのケア研究会<br>参天製薬(株)<br>※エーザイ(株)<br>☎ 0985-26-2676 |
| 第 10回地域リハビリテーション研修会<br>(1.5単位)<br>(cc : 1 ,2 ,78)                           | 2 月 26日(土)<br>15: 00～ 16: 40<br>県医師会館                     | fMRIによる脳卒中後の脳機能評価と経頭蓋磁気刺激法によるリハビリテーションの可能性<br>潤和会記念病院リハビリテーション科部長<br>河野 寛一                                                                                                   | ◇主催<br>宮崎県寝たきり予防対策支援センター<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                      |
| 平成 22年度宮崎県医師会健康スポーツ医学セミナー<br>(3 単位)<br>(cc : 11,13,23, 60,73,82)            | 2 月 26日(土)<br>15: 00～ 18: 10<br>県医師会館                     | ゴルフが教えてくれたもの<br>坂田ジュニアゴルフ塾塾長<br>坂田 信弘<br>メタボリックシンドロームと異所性脂肪<br>ー運動で脂肪筋を解消しよう！ー<br>順天堂大学代謝内分泌学准教授<br>田村 好史<br>野球肩について<br>ー少年野球からプロ野球までー<br>久恒病院長・福岡ソフトバンク<br>ホークスチームドクター 原 正文 | ◇主催<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                                           |
| 平成 22年度宮崎県医師会自殺対策うつ病研修会<br>第 2 回延岡会場<br>(3 単位)<br>(cc : 11,12,13, 14,69,70) | 3 月 5 日(土)<br>14: 00～ 17: 10<br>延岡市医師会病院                  | うつ病の特徴, うつ病患者の実態, うつ病と自殺との関係<br>宮崎大学医学部精神医学助教<br>武田 龍一郎<br>うつ病を疑う症状, うつ病のスクリーニング方法<br>吉田病院精神科 清水 謙祐<br>地域において利用可能な制度や社会資源について<br>同病院精神保健福祉士 岡山 誠一                            | ◇主催<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118                                           |

| 名 称                                                                       | 日時・場所・会費                                          | 演 題                                                          | そ の 他<br>※＝連絡先                                   |
|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 宮崎県医師会産業<br>医研修会(生涯研修<br>の専門研修会 2 単<br>位)<br>(2 単位)<br>(cc : 1 ,11,69,70) | 3 月 9 日(水)<br>14: 00～ 16: 00<br>宮崎産業保健推進<br>センター  | (4)メンタルヘルス対策<br>現代青年の精神的特徴<br>井上病院長 中村 純五                    | ◇共催<br>宮崎産業保健推進センター<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118 |
| 宮崎県内科医会総<br>会並びに会員発表<br>会・特別講演会<br>(2 単位)<br>(cc : 13,73,74,82)           | 3 月 12 日(土)<br>16: 00～ 18: 40<br>県医師会館            | 高血圧治療はコンビネーションの時代に<br>ーイベント抑制を見据えた次の一手ー<br>宮川内科小児科医院院長 宮川 政昭 | ◇共催<br>※宮崎県内科医会<br>☎ 0985-22-5118<br>第一三共(株)     |
| 宮崎市郡外科医会<br>3 月例会<br>(1 単位)<br>(cc : 1 ,7)                                | 3 月 14 日(月)<br>19: 10～ 20: 10<br>宮崎観光ホテル          | これからの薬剤師の職能について<br>宮崎市郡東諸県郡薬剤師会長 榎園 勝                        | ◇主催<br>※宮崎市郡外科医会<br>☎ 0985-53-3434               |
| 宮崎県医師会産業<br>医研修会(生涯研修<br>の専門研修会 2 単<br>位)<br>(2 単位)<br>(cc : 11,12,77)    | 3 月 16 日(水)<br>18: 30～ 20: 30<br>都城市北諸県郡医師<br>会館  | (5)健康保持増進<br>職場における転倒防止対策<br>大西医院院長 大西 雄二                    | ◇共催<br>宮崎産業保健推進センター<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118 |
| 宮崎県医師会産業<br>医研修会(生涯研修<br>の専門研修会 2 単<br>位)<br>(2 単位)<br>(cc : 1 ,11,69,70) | 3 月 18 日(金)<br>14: 00～ 16: 00<br>宮崎産業保健推進<br>センター | (4)メンタルヘルス対策<br>メンタルヘルス相談事例… 3<br>宮崎大学医学部精神医学准教授 植田 勇人       | ◇共催<br>宮崎産業保健推進センター<br>※宮崎県医師会<br>☎ 0985-22-5118 |

| 名 称                                            | 日時・場所・会費                                | 演 題                                                                                                           | そ の 他<br>※＝連絡先                                   |
|------------------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 第 163回宮崎県泌尿器科医会学術講演会<br>(1 単位)<br>(cc : 65,72) | 3 月 24日(木)<br>18: 50～ 20: 40<br>宮崎観光ホテル | 宮崎大学泌尿器科における小児泌尿器科手術について(仮)<br>宮崎大学医学部泌尿器科学助教<br>上村 敏雄<br>小児泌尿器疾患の最近のトピックス<br>福岡市立こども病院感染症センター<br>泌尿器科長 山口 孝則 | ◇共催<br>宮崎県泌尿器科医会<br>※キッセイ薬品工業㈱<br>☎ 0985-24-0769 |

## 日本医師会生涯教育制度の実施要綱が変わりました

平成 22年 4 月より施行された日本医師会生涯教育制度の実施要綱につきまして、日本医師会生涯教育認定証の発行要件が、3 年間で単位数とカリキュラムコード数の合計数が 60以上の取得者に認定証を発行することに変更されました。詳しくは平成 22年 9 月号の日州医事(都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会)に掲載しておりますので、ご確認くださいませようお願いいたします。

### 日本医師会生涯教育カリキュラム (2009)

カリキュラムコード(略称:cc)

|                     |                |                     |
|---------------------|----------------|---------------------|
| 1 専門職としての使命感        | 29 認知能の障害      | 57 外傷               |
| 2 継続的な学習と臨床能力の保持    | 30 頭痛          | 58 褥瘡               |
| 3 公平・不正な医療          | 31 めまい         | 59 背部痛              |
| 4 医療論理              | 32 意識障害        | 60 腰痛               |
| 5 医師－患者関係とコミュニケーション | 33 失神          | 61 関節痛              |
| 6 心理社会的アプローチ        | 34 言語障害        | 62 歩行障害             |
| 7 医療制度と法律           | 35 けいれん発作      | 63 四肢のしびれ           |
| 8 医療の質と安全           | 36 視力障害、視野狭窄   | 64 肉眼的血尿            |
| 9 医療情報              | 37 目の充血        | 65 排尿障害(尿失禁・排尿困難)   |
| 10 チーム医療            | 38 聴覚障害        | 66 乏尿・尿閉            |
| 11 予防活動             | 39 鼻漏・鼻閉       | 67 多尿               |
| 12 保健活動             | 40 鼻出血         | 68 精神科領域の救急         |
| 13 地域医療             | 41 嘔声          | 69 不安               |
| 14 医療と福祉の連携         | 42 胸痛          | 70 気分の障害(うつ)        |
| 15 臨床問題解決のプロセス      | 43 動悸          | 71 流・早産および満期産       |
| 16 ショック             | 44 心肺停止        | 72 成長・発達の障害         |
| 17 急性中毒             | 45 呼吸困難        | 73 慢性疾患・複合疾患の管理     |
| 18 全身倦怠感            | 46 咳・痰         | 74 高血圧症             |
| 19 身体機能の低下          | 47 誤嚥          | 75 脂質異常症            |
| 20 不眠               | 48 誤飲          | 76 糖尿病              |
| 21 食欲不振             | 49 嚥下困難        | 77 骨粗鬆症             |
| 22 体重減少・るい瘦         | 50 吐血・下血       | 78 脳血管障害後遺症         |
| 23 体重増加・肥満          | 51 嘔気・嘔吐       | 79 気管支喘息            |
| 24 浮腫               | 52 胸やけ         | 80 在宅医療             |
| 25 リンパ節腫張           | 53 腹痛          | 81 終末期のケア           |
| 26 発疹               | 54 便通異常(下痢・便秘) | 82 生活習慣             |
| 27 黄疽               | 55 肛門・会陰部痛     | 83 相補・代替医療(漢方医療を含む) |
| 28 発熱               | 56 熱傷          | 84 その他              |

## 診療メモ

## 不登校を通した子どもの診察風景

県立宮崎病院精神医療センター はし橋 ぐち口 ひろ浩 ゆき志

## はじめに

県立宮崎病院に当センターが開所して約 2 年が過ぎようとしています。外来で小児の診療を主にやっていますが、入院患者数は 1 か月間に 2～4 名ほど、新規外来患者さんを月 20 名程度診察して、現在は 1～2 か月先まで予約が一杯の状況です。当センターの小児外来には様々の訴えの患者さんが受診され、いじめ、身体症状、不安・抑うつ状態、生活リズムの問題、粗暴な言動、対人関係の問題などを訴えられます。最近はいわゆる発達障がい(なかでも広汎性発達障がいが多い)や児童虐待などが話題として見られますが、不登校もまた継続している問題です。今回は不登校を通しての子どもの診療について述べたいと思います。

## 不登校とは

文部科学省での「不登校児童生徒」の定義は何かの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるため年間 30 日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたものとしており、精神科医の齋藤らは「学校に参加することに恐れや拒否感とともに強い罪悪感をもち、家庭に引きこもる生活は総じて葛藤的であるといった状態像を伴う長期欠席」と定義しています。

1960 年の学校恐怖症から始まり、現在はどの子どもにも起こりえる状態として約 40 年間増加の一途をたどり、200 年をピークにその後はほぼ横ばいの傾向と言われています。平成 13 年度の文部科学省の全国調査では小学生では 2 万 6,511

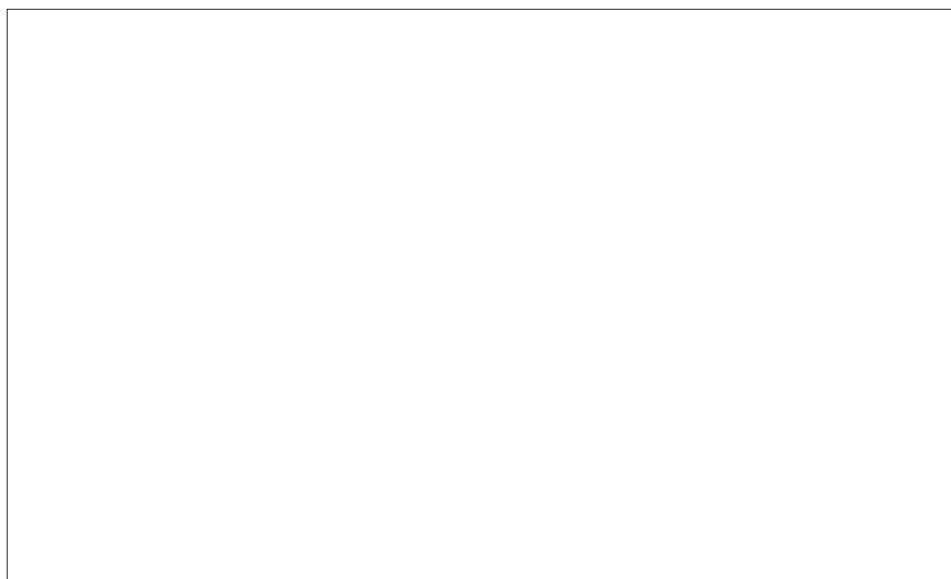


図 1 平成 1 年度からの 5 年間の不登校数の変化



人、275人に1人で、中学生で1万2,211人、36人に1人が不登校となっています。宮崎での不登校の過去5年間の推移をグラフで示します(図1)。

宮崎の平成2年度の小学生の総数が約6万5,000人、中・高学生の総数が約3万4,000人で、そのうち不登校の人数は小学生が128人、中学生が768人、高校生が353人となっています(学校からの報告数ですので、実際の数字はもっと多く、増加傾向と言われています)。10年ほど前から子どもの診療を行ってきましたが、その当時、不登校は扱いづらい、再登校に至らない、私にとっては処遇困難な症例でした。この数年は不登校に至る個人的な素因に関して発達障がい概念を知ることができ、少しは改善する割合が増えました(しかしながら全くどうしようも出来ないケースも多々あるのが事実です)。私の印象では小学校高学年あるいは中学・高校の1、2年で不登校数が増加する傾向があり、不登校を呈する方々の約半数ぐらいが広汎性発達障がいの診断特性を持っていると感じています。不登校の予後調査はいろいろありますが、齋藤らの報告では10年間の追跡調査で7割が社会適応しており、予後を左右する不登校時の精神症状として抑うつ症状、家庭内暴力、妄想関連症状を挙げています。

#### 診察室で

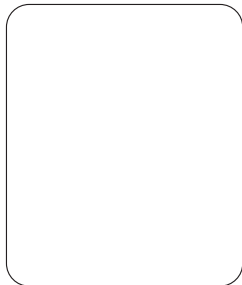
学校に行くことが出来ず家庭でも週末や夜間以外なかなか外出できない方、両親も少しでも学校に行って欲しいという想いとそれらに関連する励ましなどから逆に家庭内で粗暴な言動を引き起こしている方、家族などとの接触も少なく自室に引きこもり昼夜逆転している方などさまざまな理由で受診されます。受診までに1か月以上経過していますので本人・家族ともに疲弊された状態で受診されます。本人さんはあまり話さず何でもここに来たのかという雰囲気を出されていることが多いです。初回面接ではうまく会話を成立させることが出来ず、家族からの話が主となることも多いなかで生育歴など話を

すると時々感情を見せることもあります。本人の性格傾向などを概ね想像した上で家庭環境、両親の性格や養育態度、学校の様子を聞いてまとめとして診断、対応などを説明します。最近の子どもの特性として、対人関係が何となく苦手で、傷つきやすく、不安が強い傾向があるのではないかと感じています。そのような傾向のなか、本人・家族の苦悩や不安に耳を傾け、中立的な立場で対応を考えます。家族からは生活リズム、登校刺激、粗暴な言動、学校・教師との関係、子育ての問題、引きこもりなどへの不安をよく質問されます。家族にはこれまでの私自身の経験をいろいろ説明し、その不安を軽減しつつ、本人との距離感、今後の見通しなどを話していきます。待つことへの不安が強いなか、本人の言動を注意深く観察しながら背中を押すタイミングを計っていくことを目標とします。本人には性格傾向、認知・思考のパターン、思春期心性などを考えながら状態について本人と考え、可能であればそのまま経過を見ながら学校内の別室や校外の適応指導教室などの活用なども考えます。初診時に不安や抑うつ状態、身体症状、粗暴な言動などの2次障がい強い場合には薬物療法のことや最終的に入院による環境調整なども説明します。薬物療法は近年の抗うつ薬を主剤として、抗不安薬や抗精神病薬などの併用も検討します。不登校の問題は医療のみの問題ではなく、子どもの生活と関連するすべての関連機関との連携が欠かせません。最近再登校が増えてきたのも関連機関のおかげとも考えています。

#### 終わりに

不登校を例とした子どもの精神科診療について簡単ながら説明させていただきました。近年の家庭や子育て環境の悪化、家庭機能不全、経済状態の変動、行政・教育機関の考えとその連携など宮崎の子どもの成育には多くの問題がありますが、少しずつでも子どもの育つ環境がよくなるように今の大人が考えていかなければならないと日々思っています。

## 私 の 本



## 生 き る 力

宮崎市 たにぐちレディース  
クリニック

たにぐち じ ろう  
谷 口 二 郎

発行所 鉾 脈 社  
定 価 1 , 3 6 5 円 ( 税 込 )

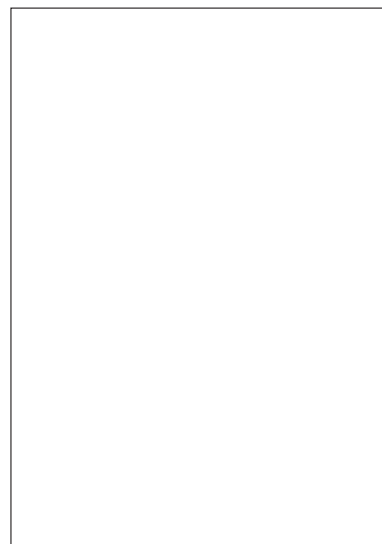
昭和 60 ( 1985 ) 年 8 月 20 日。宮崎市内の松橋で『谷口産婦人科医院』を開業しました。35 歳の時でした。その後、平成 13 年 ( 2001 ) 年上野町に引っ越し、今の『たにぐちレディースクリニック』が誕生しました。平成 22 ( 2010 ) 年 8 月で開業して 25 年が経ちました。

さて、私が投稿し始めたのは、20 年以上も前からです。投稿というのは必ず載るわけではなく、続いて載る事もある、全く載らない事もあります。必ず載ると思っている人もいますが、実際に載る確率は 4 割くらい。つまり 10 回のうち 6 回は載らないという事になります。せっかくいろいろ伝えたいのに、載らないという事が続くと、何とか思いを伝えたいという気になります。

そこで毎週月曜日、宮崎日日新聞の『あどパーク』に文章を載せる事にしました。

それは平成 18 年 5 月 1 日から平成 22 年 12 月 27 日まで続き、208 編を掲載しました。いろんな方から「見てるよ」「楽しみにしてるよ」「頑張ってる」と言われるとこちらの方が勇気をもらいます。それと同時にいろいろ私の方もネタ探しをしないといけなくなりました。それは大変ですが、自分自身を磨く良いチャンスでした。

この本には、おもちゃ箱をひっくり返したようないろんなテーマの話が入っています。それをまとめ、昨年 12 月にその中の 17 篇を選び 1 冊の本にしました。少しでもそれが読者の皆様に勇気づけられるといいなと思っています。『生きる力』はそんな本です。



## ●●● 読者の広場 ●●●

日州医事 1 月号へいただいたご意見・ご感想を紹介します。

- ◆ 新春随想, エコー・リレーは, 作者の先生方のお人柄がしのばれ, 大変すばらしかった。
- ◆ 毎回楽しく読ませていただいています。個人的には随想が好きです。
- ◆ 内容が読みやすく, よくできていると思います。
- ◆ 今後は, パラメディカルから医師への提言(特に耳が痛くなるような内容)も載せてほしいと思います。
- ◆ できれば, 対談形式のものも考えてもらえれば良いと思います。  
(例)テーマ どうして宮崎に医師がいないのか?(医師側の意見, 行政の意見など)

ご意見・ご感想, ありがとうございました。

日州医事では, 会員の皆さんからのご意見を募集しています。

(宮崎県医師会 FAX 0985 - 27 - 6550)

## 女性医師メーリングリストのご案内

仕事や育児のちょっとした悩み相談やお役立ち情報の提供など, 女性医師同士で気軽に情報交換を行いませんか。女性医師であればどなたでも参加できます。医師会の会員・非会員, 現在の仕事の有無などは問いません。

《お申し込み》

E-mail: wdr-admin@iyazakimed.or.jp

FAX: 0985-27-6550

※「女性医師メーリングリスト申込書」は, 宮崎県医師会ホームページのDoctors Pageからダウンロードできます。

《お問い合わせ》

宮崎県医師会

TEL 0985-22-5118

FAX 0985-27-6550

担当 富高・小川

## お知らせ

県医師会から各都市医師会へ送付しました文書についてご案内いたします。詳細につきましては、会員専用ホームページをご覧ください。所属都市医師会へお問い合わせください。

| 送付日     | 文 書 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月 14日 | ・ インフルエンザワクチンの安定供給について                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 12月 17日 | ・ 臓器移植を介したバラムチア・マンドリルリス感染によるアメーバ脳炎について                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 12月 21日 | ・ インフルエンザサーベイランスの継続について<br>・ 中医協が実施する平成 22 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 22 年度調査)について                                                                                                                                                                                                                                           |
| 12月 22日 | ・ 抗インフルエンザウイルス薬の安定供給等について<br>・ 医薬品・医療機器等安全性情報第 275 号の速報について                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 12月 27日 | ・ 「ヒト受精胚の作成を行う生殖補助医療研究に関する倫理指針」の策定について<br>・ 「同一都道府県内で郡市区等医師会を移る際に用いる新様式導入の是非に係る調査」について(御礼)                                                                                                                                                                                                                                |
| 12月 28日 | ・ 診療システム(電子カルテ)不具合による薬剤誤投与について                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 1 月 4 日 | ・ 日本 COPD 対策推進会議の設立について                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1 月 5 日 | ・ 「病原微生物検出情報」, 「病原微生物検出情報(普及版)」の送付について<br>・ 被爆者健康手帳の無効について<br>・ 医薬品の効能・効果の追加に伴う留意事項通知の一部改正について<br>・ 使用薬剤の薬価(薬価基準)等の一部改正について<br>・ 「70 歳代前半の被保険者等に係る一部負担金等の軽減特例措置実施要綱」の一部改正について<br>・ 新公益法人制度への移行に伴う医師会実施許認可業務・指定業務に係る行政手続きについて<br>・ 国民健康保険法施行規則及び高齢者の医療の確保に関する法律施行規則の一部を改正する省令等の施行について<br>・ 公知申請に係る事前評価が終了した医薬品の保険上の取扱いについて |
| 1 月 6 日 | ・ ビソプロロールフマル酸塩の慢性心不全に対する適応外使用について                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

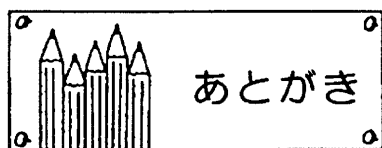
| 送付日     | 文 書 名                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 月 7 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康保険被保険者証並びに船員保険被保険者証の記載事項の変更について</li> <li>・健康保険被保険者証並びに船員保険被保険者証の記載事項の変更について</li> <li>・母子健康手帳の任意記載事項様式の改正について</li> </ul>                                                                                                            |
| 1 月 11日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本医療機能評価機構「医療事故情報収集等事業医療安全情報」及び医薬品医療機器総合機構「PMDA 医療安全情報」の送付について</li> <li>・医療事故情報収集等事業第 23回報告書の送付について</li> <li>・国土交通省「住宅・建築物耐震化緊急支援事業」の第 2 回募集について</li> <li>・医療広告ガイドラインに関する Q &amp; A(事例集)の追加について</li> </ul>                           |
| 1 月 14日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・H T L V -1 総合対策について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                       |
| 1 月 19日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器の不具合等報告の症例の公表及び活用について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                 |
| 1 月 21日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令及び検疫法施行令の一部を改正する政令等の施行等について</li> <li>・「インフルエンザ様疾患発生報告」の変更等について</li> </ul>                                                                                                                               |
| 1 月 24日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「財団法人 医療関連サービス振興会 第 20回シンポジウムご案内」の送付について</li> </ul>                                                                                                                                                                                  |
| 1 月 25日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康保険および後期高齢者医療制度における診療報酬の支払早期化について</li> <li>・ジェネリック医薬品使用促進の取組みについて</li> <li>・医療機器の保険適用について</li> <li>・「医療機器の保険適用について」の一部訂正について</li> <li>・材料価格基準の一部改正について</li> <li>・「使用上の注意」の改訂について</li> <li>・医薬品・医療機器等安全性情報第 276号の速報について</li> </ul> |

-----

あなたできますか？（解答）

|   |      |      |   |      |   |         |   |   |    |
|---|------|------|---|------|---|---------|---|---|----|
| 1 | 2    | 3    | 4 | 5    | 6 | 7       | 8 | 9 | 10 |
| a | a, b | b, d | d | c, d | b | c, d, e | b | c | e  |





## あとがき

をよくよく学んで、今年からようやく臨床実習です。患者さん寄りの立場から医師寄りの立場へここで一気にシフトするのかな、と感じます。実習に向けて、ますます勉学に励まなければ。でも実習にも働き始めてからも体力は必要…。ということで、趣味の話で恐縮ですが、最近ロードバイクを始めました。ロードバイクは素人でも少しかじれば時速 40km くらいは出るという、大変性能の良い自転車です。体力のない私でも清武から青島まで楽に往復できます。ドロップハンドルになっているので、楽な姿勢で乗ることも、体を倒してスピードを出すことも可能です。そろそろ解体と組み立てを覚えて、輪行(自転車での旅行)もしたいな、なんて考えています。医者への階段を上る途中、今出来ないことはたくさんありますが、逆に時間がある今しかできないこともたくさんあると思います。思い切り学ぶこと、外の世界に触れること、心を震わせる何かと出会うこと。全ての経験は糧になる、を信条に時間を大切に充実した毎日を過ごしていきたいと思っています。

(川崎)

12 年前に海外旅行中のハワイでくも膜下出血を起こし緊急手術～入院をしたという女性の患者さんがおられ、その時のことを詳しく聞かせて頂きました。救急車で脳外科のクリニックに行き緊急手術・入院・リハビリを受け、宮崎へは担架で医師の付添つきで飛行機とタクシーで帰ってこられたそうです。お蔭で今はお元気でおられますが、かかった医療費をお聞きしたところ…緊急手術した一日が 5 万 7 千ドル、その後の入院 1 日間分が 7 万 6 千ドル余り、その他交通費もろもろ入れて…総額 1,600 万円以上ということでした。この医療費を唯々高いと考えるか…いろいろと考えさせられます。

(和田)

毎日寒い日が続きます。毎朝やっとの思いで寢床から抜け出すと、とりあえず「はんでん」を羽織り靴下を履いてから洗面所へ向かいます。こんなに朝がつらくなったのは最近のことで、「寒がり」になった理由もいろいろあるでしょう。ところが休日の朝になると、目覚まし時計が鳴るのを待ちきれずにそそくさと身支度を整え、ニンマリしているのも紛れもない私です。今冬はついに「紳士用手袋」の導入を決意し、暖かでお洒落でかつ実用的な指ぬきの一品を物色中です。もしかすると毎日の通勤に欠かせないマストアイテムになるかもしれません。要は心構えも「愉しみ」次第…?

(尾田)

年末年始、家族でスキーに行きました。子供達も少しずつ上達し、久しぶりにスキーを満喫できたのですが、スキー場に若者が少ないことに気づきました。正月という時期のこともあるのですが、家族連れと中国人ばかりが目につき、若いグループはごく少数。私の学生時代はスキーブームの絶頂期で、スキー場へ向かう高速道路はスキーバス(夜行バスを使った格安のスキーツアー)が数珠繋ぎだったのに。眠たい目をこすりながら、キラキラした白銀の世界に飛び込んでいったあの頃…。今の若者はアウトドアに興味湧かないのか、それともこれも不況の影響なのか…。

(坪井)

ついに股引(ももひき)デビューしました。男です

医学生生の知識の評価を行う CBT (Computer Based Testing) と、診察技能・態度の評価を行う OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験) が本年度から 4 年生から 5 年生になる際の進級判定に使用されることになっています。先日この 2 つの試験が終了し、あとは結果を待ちつつ後期試験をこなす、というところですよ。紙の上で基本的な知識(医学知識、一般常識、患者さんへの態度などなど)

が生来の冷え性で冬は車の運転をするときも手袋をする程の寒がりですが、股引だけは「おじさん」の象徴なので抵抗がありました。昨年までは冬の朝冷えたズボンから脚に冷気が通るのをこらえていましたが、今年のこの寒さでついに解禁しました。おじさんがおじさんらしくしているだけ、と一旦開き直ると怖いものなし。最近は背中に「はるカイロ」まで張って防寒対策万全です。

(田坂)

さだまさしさんの「風に立つライオン」という歌に登場する医師のモデルとなった先生が宮崎にいらっしゃることは、ご存知の方が多くかもしれません。その返歌「八ヶ岳に立つ野ウサギ」を聴かれたことがありますか。野ウサギのモデルとなった先生は、長野県で内科医として地域に根ざした診療所にいらっしゃいます。縁あって時々近況報告をしますと、先生は冬の厳しい信州で、歌詞の通りの往診を続けていました。ぜひ歌詞に触れてみてください。

(彦坂)

私ごとですが、つい先日宮崎大学医学部医学科三年の後期試験が終わりました。さすがに宮崎大学の山の一つと言われるように、莫大な暗記量の前に何度も心が折れそうになりました。また今回の試験は、年明け直後の試験ということで、多くの方がお正月も帰らず(帰ることができず)、大学で勉強していました。私もその一人だったんですが、紅白も見ることなく大学の図書室で友達とした新年のカウントダウンは今では良い思い出です。と、ここまで書いて、私自身まだ試験の結果待ちの状態であります。まだ当分は、落ち着かない日々が続きそうです。

(前田)

悪名高い外来管理加算 5 分ルールは昨年の改定時に廃止されました。当然内科診療という技術料を評価した大原則に戻り、自動的に加算できることになったはず。しかし官僚はしたたかです。算定要件はそのまま残っています。5 分という単語だけ削除したようです。馬鹿げた会話の記載例などそのままです。こんなものは私は無視します。ただカルテ記載は省令や通達と違い、法律です。現場の感覚で必要な事項だけは記載するつもりです。

(済陽)

## 今月のトピックス

日州医談 介護保険制度の見直しに関する意見を読んで思うこと

介護保険サービスとはどのようにあるべきか、地域包括ケアシステムの確立とは、給付と負担のバランスをどう図るべきか、そのためにどのように制度改定されるべきか・・・課題の多い次回改定への思いを石川智信常任理事が詳しく検討されています。

4ページ

新春随想

好評の新春随想の第二弾です。今月も先生方の思いやメッセージが詰まった、読み応えのある作品を多数寄せて頂きました。ぜひ一読下さい。

8ページ

診療メモ 不登校を通した子どもの診察風景

県立宮崎病院に精神医療センターが開所して約2年、橋口浩志先生が「不登校児童生徒」の定義、対応や予後、宮崎での現状などについてわかりやすく説明してくださいました。

54ページ

日 州 医 事 第 738号 (平成 23年 2 月号) (毎月 1 回 10日 発行)

発行人 社 団 法 人 宮 崎 県 医 師 会

〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10 番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550

<http://www.miyazakimed.or.jp/> E-mail office@miyazakimed.or.jp

代表者 稲 倉 正 孝

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 和田 俊朗・副 委 員 長 尾田 朋樹

委 員 下 薗 孝司, 上野 満, 黒川 基樹, 藪内 悠貴, 湯浅美紗子

坪井 康浩, 田坂 裕保, 彦坂ともみ, 川崎真由美, 前田 雄洋

担当副会長 富田 雄二・担 当 理 事 荒木 早苗, 済陽 英道

事 務 局 学術広報課 喜入 美香, 杉田 秀博

印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350円 (但し、県医師会員の講読料は会費に含めて徴収してあります)